貝　塚　市　立
浜　手　地　区　公　民　館

目　　次

■年間総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 1
■講座・事業
◇　青少年対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 6
プロに学ぼう！パティシエ講座
夏の子ども講座
コドモ防災塾
おばけやしき
ビストロはま～て
新春あそびたい会
子ども居場所事業（はまて子どもパーク・＋KOMINKAN・レッツ TRY）
鉄道模型　N ゲージ走行展示会
◇　子育て支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 14
げんきに子育て
パパサロン
SALON BeBe
子連れヨガ
◇　成人対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 20
スマホらいふ～もっと便利に、もっと楽しく♪～
続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催講座）
シルバーライフ
終活へいらっしゃ～い♪
かしこく夜活（前期・後期）
よる☆うた
ボディメイクピラティス
ととのう！現代人応援講座
シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）
◇　共生社会づくり事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 32
ふれあい料理
こうせい展
◇　文化振興事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 34
浜手アフタヌーンコンサート
Autumn Jazz Concert
色とりどりの音楽会
にんぎょうげき
◇　人材養成事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 39
ふれあい料理ボランティア
保育ボランティア
浜手アフタヌーンコンサート企画委員
図書整理ボランティア
◇　地域連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 42
二色学園コラボ芸術鑑賞会
ふれあいまつり
ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）
プレイルーム開放
第五中学校区地域教育協議会(すこやかネット)
二色パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）
【参考】「ほかでもがんばっているよ」一覧表
◇　団体支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 48
浜手地区公民館利用者連絡会
将棋を楽しむ場

令和６年度　浜手地区公民館　事業総括

はじめに

これまでの経験を十分に活かしながら安全・安心な事業に取り組み、乳幼児から高齢者に至るまで相互に支え合い、交流関係が育まれる講座を実施し、市民からのニーズや地域の現状を参考に事業展開を図った。

地域との結びつきを大切にし、地域住人の憩いの場、学習拠点になるよう努め、人材育成や団体連携を進めた。

１．公民館主催事業

・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

＜状況・成果＞

・講座事業において、受講者の声を講座内容に反映させ、地域と公民館の繋がり・地域住民同士の繋がりを意識し、職員間で協議を重ね開催した。また SDGs に関連した取り組みの推進を図った。

・働く世代が参加しやすい夜間・土日での講座開催を行い、新規利用者の開拓につなげた。

・広報かいづか・ホームページ・フェイスブック・インスタグラムを活用し広報に努め、事業終了後は壁新聞等で学習成果の報告を行い、また地域の広報紙にも情報提供した。

＜課題＞

・引続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの把握に努め、様々なツールで学習成果の共有を図る。

・主に現役世代の新規受講者の獲得を意識した講座・事業を検討する。

①　青少年対象事業

・子どもが公民館を利用しやすいよう環境を整えるとともに、夏休みや土日を利用して様々な体験ができる講座などを開催する。

・子どもが、企画・運営にも関わる事業に取り組み、主体性を育む。

・異世代・異年齢の人との交流ができる機会を設ける。

・青少年の自主活動でも施設の利用ができることを広く知らせる。

＜状況・成果＞

・「プロに学ぼう！パティシエ講座」は、学生の職業選択の機会及び、料理を通しての世代間交流に努めた。

・「コドモ防災塾」は、子どもたちの防災に対する意識向上の場となった。

・「夏の子ども講座」は、ボランティアの協力を得て、子どもたちに様々な体験の場を提供することができた。

・「鉄道模型　N ゲージ走行展示会」は、ロビーを活用し、鉄道好きな子どもや親子、また大人が集い、世代間交流の場となった。

・「ビストロはま～て」は、自分で簡単な料理が作れるようなメニューを考案し、実践した。出来上がった料理は、保護者と一緒に食した。

・「+KOMINKAN」は、大阪体育大学の学生ボランティアの協力を得ながら実施した。

・「おばけやしき」は、子どもたちがボランティアの協力を得ながら企画立案することで、主体性を育むことができ、また世代間交流にも繋がった。

・ロビーで集う子どもたちが、快適かつ安心して遊べるよう努めた。

＜課題＞

・引き続き子どもたちが参加しやすく､安全な講座を開催するため内容と持ち方の検討を行う。

②　子育て支援事業

・子育て世代対象の講座を企画し、学習・交流を通じて不安を解消し、孤立しないよう仲間づくりを進める。

・乳幼児親子の交流の場を設け、父親も含めた親同士の繋がりが広げられるよう工夫し取り組む。

・関係各課と連携して、子育てに対する幅広い支援を推進する。

＜状況・成果＞

・「SALON BeBe」は、英語あそび・造形あそびを取り入れ、SNS を活用し周知することで、新規利用者が増加した。またボランティアの協力もあり、子育ての相談や交流の場となっている。

・「パパサロン」は、新たな参加者もあり、父親同士の情報交換の場となった。

・「げんきに子育て」は、子育て中の親同士が交流し、子育ての悩みや情報を共有した。また乳幼児を持つ親が自身の時間をもち、安心して学習や趣味を持てる環境づくりに努めた。

＜課題＞

・引続き親子が安心して参加でき、子育てするなかで孤立しないような居場所づくりを行う。

③ 成人対象事業

・若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで受講者の拡大を図り、また講座修了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。

・市民が関心を持ち、新規受講(参加)者の開拓につながるような、事業の企画・運営に努める。

・地域課題の把握に努め、学んだ知識を日々の生活や地域の中で生かし、支え合う人間関係づくりができるような事業展開を図る。

・関係各課との連携で、事業内容を充実したものにしていく。

＜状況・成果＞

・「シルバーライフ」は、受講者が会話しやすい雰囲気づくりに努め、座談会やふれあいまつりへの出店を通して、受講者同士の繋がりが深まった。

・「かしこく夜活」「ととのう！現代人応援講座」「ボディメイクピラティス」は、若者や働く世代が参加しやすい時間帯を考慮し夜間に実施、また講座についても若者が興味を抱く内容を取り入れ、公民館の利用増のきっかけ作りとなった。

・「シニア世代の筋力アップ講座」「続ける！ノルディックウォーキング」は、高齢介護課と共催で開催し、高齢者の筋力アップや、認知症予防対策に繋がった。

・「スマホらいふ」は、高齢者が自分のスマホを使えるように、一人ひとりのペースに合わせ実施した。

・「終活へいらっしゃ～い♪」は、市民が終活準備についてのノウハウを得て、不安を解消し、人生 100 年時代を愉しく過ごせるための一助とした。

・「よる☆うた」は、現役世代に参加を促し、舞台発表を目指すことで、やりがいや他の利用者との交流につなげた。また、講座終了後、グループ活動として継続することとなった。

＜課題＞

・引続き開催日時やテーマを工夫し、現役世代の新規受講者の開拓に努める。

・高齢者が地域の中で生き生きと暮らせるよう講座・事業に取り組む。

④ 共生社会づくり事業

・多様性社会への理解を深め広めるとともに、講座・事業の展開を図り、共生社会の課題を考える機会を設ける。

・各関係課と連携し、共生課題の取り組みをめざす。

＜状況・成果＞

・「ふれあい料理」は、料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供した。また、受講者とボランティアの交流の場となった。

・「こうせい展」は、障がいがある人の作品にふれ、共生社会への理解につなげた。

＜課題＞

・多様性社会への理解については、テーマや切り口を変えながら、継続的な開催に努める。

・人権を身近に捉えられるようさまざまな方法で人権学習の構築を図る。

⑤ 文化振興事業

・発表や展示の場を提供し、利用者(市民)の文化活動の活性化を図るとともに、企画に携わる市民ボランティアの拡大など、市民参画の文化事業を推進する。

・ロビーやホール等の活用で、身近に生の文化芸術に触れる機会を設ける。

＜状況・成果＞

・「アフタヌーンコンサート」「Autumn Jazz Concert」は、音楽を通じて文化芸術に触れる機会を設けることができた。

・ロビーを活用し、公民館クラブや市民の作品を展示した。

・「にんぎょうげき」は、公民館クラブとこども園の協力で行い、親子が人形劇を身近に楽しむ機会となった。

・「色とりどりの音楽会」は、市民の主体性を引き出し、プロの演奏家とコンサートを作り上げ、芸術を身近に感じられる場となった。

＜課題＞

・引き続き、身近に生の文化芸術に触れる機会を設けるとともに、新しいニーズ把握に努める。

２．人材養成事業

・クラブやグループ活動の中から、主体的に活動を担う人材が育つよう助言や支援を行う。

・ボランティアの研修を実施し、活動の充実・人員増を図るため周知する。

・公民館利用者の意識を高めるため、公民館に関する課題が認識できるような取り組みを企画・実施するとともにクラブに対しても協力を求めていく。

・ふれあいまつりや地域連携事業を通して、新たな人材の発掘・登用を図る。

＜状況・成果＞

・アフタヌーンコンサート企画委員会は、市民の企画委員とともに運営している。前回の振り返りや今後の出演者候補などの話し合いをし、またポスター掲示や近隣へのチラシポスティング等の広報活動を行った。

・保育ボランティアは、保育つき講座「げんきに子育て」の保育に加え、「SALON BeBe」のあそびボランティアでも保育協力を得た。その結果ボランティア間交流の促進に繋がった。

・ふれあい料理ボランティアは、施設指導員・ボランティア・職員と、運営や対応についての打ち合わせをし、円滑に「ふれあい料理」が行える体制を作っている。

・図書整理ボランティアは、利用者が使いやすいよう図書整理を行った。

＜課題＞

・継続的にボランティアの人員拡大を図る。

・ボランティアの声も聞きながら、安心して講座運営に関わることができるよう支援する。

３．地域連携事業

・地域の団体や町会へ積極的に出向き、地域の課題やニーズの把握に努め事業に反映する。

・町会館・学校など身近な施設を利用し、普段公民館に来られない人も参加しやすくするよう考慮し、それを通じて地域の繋がりを目指す。

・「ふれあいまつり」は、地域団体を含む参加団体で企画段階から話し合いながら広く地域住民への啓発・交流の場として取り組んでいく。

＜状況・成果＞

・偶数月に開催する「パークタウン連絡協議会」会議、奇数月に開催する「防災専門委員会」会議に出席。またコロナ前の規模に戻し開催した盆踊りに参加し、地域や各種団体とつながりを持った。

・「二色学園コラボ芸術鑑賞会」は、コミュニティ・スクールとして開校した二色学園と地域住民が、つながりを深める場となった。

・「ふれあいまつり」は、運営の負担を減らし、簡素化したことでクラブ・団体が主体的に動き大盛況に終わった。

・「みんなのロビー展示」は、クラブや子どもパーク、三館利用者連絡会の展示交流を行い、地域の憩いの場となった。

・プレイルームは、利用がない時間帯に乳幼児親子の居場所として開放した。

＜課題＞

・人とのつながりが希薄にならないよう、地域と連携を図りながら取組んでいく。

・地域の状況やニーズに応じた事業を展開していく。

４．団体支援事業

・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援をおこなう。

・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。

・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

＜状況・成果＞

・利用者連絡会定例会で、クラブ体験講座開催について呼びかけ、広報で受講者を募った。

・利用者団体代表者会議は行わなかったが、5 月定例会で公民館活動の意義や大切さ、また公民館の使い方を伝えた。

・利用者連絡会のレクリエーションは、「いちご狩り」を行い、多数の参加があり大盛況だった。

・「将棋を楽しむ場」は、将棋を通じて親睦を深め、気軽に楽しむ場を提供した。また、来年度は自主グループとなり、運営が始まる。

＜課題＞

・今後も公民館活動に対する認識が深まるよう働きかける。

・引き続きクラブ活動が維持できるよう支援していく。

≪主催講座・事業・共催事業≫

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY		通年		
	＋KOMINKAN		4/28～3/23	11 回	88 人
	プロに学ぼう！パティシエ講座	19 人	6/2	1 回	19 人
	夏の子ども講座		7/20～8/8	17 回	247 人
	おばけやしき作戦会議	14 人	7/29～8/22	4 回	48 人
	コドモ防災塾	16 人	7/26	1 回	16 人
	公民館へゴー！N ゲージ鉄道模型展示走行会		8/3～8/4	2 回	250 人
	ビストロはま～て	9 人	8/10～12/1	3 回	25 人
	おばけやしき		8/23	1 回	100 人
	新春あそびたい会		1/7	1 回	41 人
子育て支援事業	SALON BeBe		4/2～3/25	43 回	223 人
	子連れヨガ		4/30～10/29	3 回	29 人
	げんきに子育て（保育つき）		5/17～7/5	8 回	46 人
	パパサロン		5/26～12/8	7 回	140 人

成人対象事業	スマホらいふ　～もっと便利に、もっと楽しく♪～	6 人	4/23～3/25	12 回	72 人
	続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催）	20 人	4/30～5/21	4 回	55 人
	シルバーライフ	36 人	5/9～12/5	23 回	613 人
	かしこく夜活	①24 人 ②20 人	5/16～6/20 11/7～12/12	5 回 4 回	59 人 58 人
	ボディメイクピラティス	16 人	6/17～7/8	4 回	60 人
	終活へいらっしゃ～い♪	①32 人 ②21 人	6/28～7/12 1/24～2/7	3 回 3 回	123 人
	よる☆うた	19 人	7/11～11/30	13 回	160 人
	ととのう！現代人応援講座	20 人	9/2～9/30	3 回	49 人
	シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催）	30 人	9/3～10/29	5 回	135 人
共生社会づくり事業	ふれあい料理講座(障がい者のための料理講座)		5/13～3/10	10 回	146 人
	こうせい展		10/4～10/20		
文化振興事業	浜手アフタヌーンコンサート		4/11～2/13	6 回	631 人
	Autumn Jazz Concert		9/29	1 回	110 人
	色とりどりの音楽会		11/30	1 回	101 人
	にんぎょうげき		2/22	1 回	102 人
人材養成事業	ふれあい料理ボランティア	11 人		12 回	73 人
	保育ボランティア	9 人		8 回	42 人
	浜手アフタヌーンコンサート企画委員	6 人		6 回	26 人
	図書整理ボランティア	1 人			
地域連携事業	二色学園コラボ芸術鑑賞会		10/18	1 回	34 人
	ふれあいまつり		10/26～27	1 回	1,650 人
	プレイルーム開放		4/8～3/8	69 回	280 人
	ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）				
	第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）			3 回	
	二色パークタウン(連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会)			16 回	
団体支援事業	将棋を楽しむ場		4/14～	12 回	76 人
	浜手地区公民館利用者連絡会[24 クラブ]	297 人			
	利用者団体代表者会議				

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1 回限りの事業（参加者数は「延べ参加者数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」

―青少年対象事業―

プロに学ぼう！パティシエ講座

＜ねらい＞

中高生の職業選択のきっかけ作り。

中学生から大人まで、料理を通しての世代間交流。

＜状況・成果＞

6/2　日曜日　13 時～16 時　受講者 19 人

講師：下吹越　惇（大阪調理製菓専門学校　製菓専任講師）、学生 4 人

メニュー：デコレーションケーキ

昨年度は 50 人以上の申込があり好評だった講座を、同じ内容で、定員を 4 人増やし開催。しかし、今年度は思うように人が集まらず、締切日に昨年度抽選で外れた高校生に電話連絡し、ようやく定員を満たすことができた。子どもと大人の割合を半々にすることを目指したが、受講者の内訳は中学生 4 人、高校生 4 人（うち 1 人は欠席）、大人 12 人で、目標には届かなかった。それでも、学生が少ないなりに、世代をバラバラに班構成したことで、作業中に会話を交わすなどで交流は持つことができた。

当日は、プロのデモンストレーションを間近に見ながら、スポンジ生地を上手に焼くコツを教わり、1 人 1 台ずつ基本の技術であるナッペ（生クリームの塗り方）を体験し、デコレーションケーキを仕上げた。作業中、テーブルに 1 人ずつ専門学校の学生がついてくれたことで質問もしやすく、アンケートにも「先生の説明が細かく、1 テーブルに生徒さんが 1 人ついてくれたことにより、安心して取り組めた」とあった。

講師にはプロとして楽しかったことの他に、「大変だったことや失敗談を話してほしい」と伝えている。昨年度来てくれた講師は都合があわず、今回、別の先生が来てくれ、また違う話が聞けたことが良かった。自身の夢を追いかけパティシエとなった後、卵アレルギーとなり苦悩した経験談は、どの世代にも響いたようだ。ただ、打ち合わせ内容の引継ぎが一部されていなかったようで、専門学校の宣伝が多く入ってしまったことは気になる点として残った。

【アンケートより】

・優しく教えてくれて何のためとかも教えてくれて、本当に楽しめました。パティシエという仕事のことも知れてケーキ作りの大変さも実感することができた。

・思っていた以上に専門的な話が聞けて楽しかった。なかなかない機会なのでありがたかったです。

・プロの作っているのを見るのが初めてだったので、近くで見られて良かったです。簡単にやってそうなことが、実際自分でやってみると全くできなかったです。

＜課題＞

募集枠の再検討。

中・長期的な開催を視野に入れ、さまざまな分野からプロの講師を招くことを検討。

専門学校側へ公民館についての理解を促していく。

夏の子ども講座

＜ねらい＞

学年や学校を越えた異年齢交流。

公民館クラブ・グループ等、地域の大人との関わりの中でさまざまな体験をする。

＜状況・成果＞

7/20～8/8　17 講座　協力 17 団体　申込総人数 337 人　受講者延べ 247 人

講座数や受講者は去年より減っているものの、今年度は 11 クラブから積極的に企画申込があった。クラブ以外では 6 団体が、職員から声を掛けずとも集まった。特に、昨年度お願いしたが実現しなかったふれあい料理ボランティアが積極的に企画を進めていたこと、昨年度まで第五中学校で活動していた二色木工ボランティアが、自分たちの活動をアピールしたいと参加したことが特徴的だ。

定員を超えた申込があったのは 9 講座で、うち 4 講座は定員を増やし受け入れてくれた。

ふれあい料理ボランティアが行なった講座「楽しく作って楽しく食べよう！」は、定員の 2 倍以上の申込となった。小学 1 年から 6 年生まで学年バラバラに班を構成したので、小さい子がお兄ちゃんお姉ちゃんと協力する姿が見られ、アンケートにも「友達になったり協力できたから楽しかった」「包丁を使ったり、年下の子どもを教えたりできてちょうど良かった」と書かれていた。ただ、ボランティアからは「ボランティアの人数がもう少し多い方がいい」「できれば 2 年生くらいからの方がいい」という声も聞かれた。

「木の工作教室」は、定員の倍近くの申込で、抽選で落ちるのはかわいそうだと 2 日間開催され、全員が受講できた。木工ボランティアが夏の子ども講座に慣れていないことや機材を扱うのに危険が伴うこと、また、場所が旧第五中学校ということもあり、職員が 2 人担当に入り丁寧に対応した。参加した子どもからは「今までにないような経験ができた」「初めて使った道具とかいっぱいあった」「むつかしかったけど、できてから達成感があった」と喜びの声が聞かれた。

今年度初めて参加したクラブもあり、この事業がクラブ員の主体的な活動のきっかけになっているが、クラブからは「来年も開催できれば良いですが、クラブ員も皆高齢ですし、もう少しメンバー（クラブ員）を増やせればと思っています」という声もある。

＜課題＞

協力団体であるクラブの活性化も必要。

―青少年対象事業―

コドモ防災塾

＜ねらい＞

子どもたちが楽しみながら防災を考えるきっかけとする。

＜状況・成果＞

7/26　金曜日　10 時～12 時半　受講者 16 人

子どもたちに、防災を考えてもらうきっかけとして開催。貝塚市内 6 つの小学校から小学 3～6 年生の子どもたち 16 人が集まった。1～3 時間目で内容を変え、子どもたちが集中して取り組めるよう工夫した。

1 時間目は貝塚市役所危機管理課の防災士を講師に、地震と津波の基礎知識を学んだ。そのあとグループに分かれて「なまずの学校」という防災ゲームに挑戦した。災害時、身近にあるどんなものが使えるのか、周りの子と相談して真剣に考えていた。

2 時間目は貝塚市消防本部の救命士から、災害時の応急処置や AED の使い方について教えてもらった。心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくん」を使い、実際に使うときと同じ流れで使用方法を学んだ。実際に AED を使って救助しているときの音声動画はとても衝撃的だったようで、子どもたちはその後さらに真剣な面持ちで講師の話を聞いていた。

3 時間目はボランティアの協力で、実際に非常食を作って食べてみることに挑戦。今回は電気が復旧した前提でお湯を使用したが、60 分あれば水でも作れることなどを学んだ。初めて非常食を食べた子も多く、「美味しい！」と完食する子もいれば、「こんなん毎日イヤや…」と食べ進まない子もいた。避難が長期化した際の「食」について考えるきっかけとなったようだ。

最初は他校の知らない子ばかりで緊張していた子どもたちだったが、最後の調理の頃にはすっかり仲良くなっていた。それぞれの学校の話などで盛り上がり、なかなか食事が終わらないほどだった。講座が全て終わった後も、新しく出来た友だちと卓球をしたりロビーでゲームをしたり楽しそうな姿が見られた。

～アンケートより～

人をたすけることをまなびました/ぼうさいにかんすることを学べた/クイズがあったしたのしかった/ごはんをつくったのがたのしかった/ゲームなどをしてぼうさいのことをよくしれた/りょうりとかハートのおすやつが楽しかった/いろいろなことを習えてうれしかった/やさしくおしえてくれた

＜課題＞

引き続き子どもたちが興味・関心を持てるような内容で防災講座を継続していく。

プログラム

内　　容	講　師
1 時間目 地震に備える！防災ゲーム	貝塚市役所 危機管理課
2 時間目 もしもの時の応急処置	貝塚市消防本部
3 時間目 非常食を食べてみよう！	おちゃべりクッキング

おばけやしき

＜ねらい＞

子どもが企画･運営したおばけやしきを多くの人に楽しんでもらう。

子どもが主体的に考え活動できる場を作る。また、大人のボランティアと世代間交流をする。

＜状況・成果＞

【作戦会議】7/29、8/5、8/19　月曜日　13 時半～15 時　8/22　木曜日　15 時半～16 時半

メンバー14 人　ボランティア 5 人（打ち合わせ 7/22）

小学 1 年生から 5 年生までが集まり、ボランティアと一緒におばけやしきを企画した。

作戦会議初日には自己紹介の後、以前の画像を見てイメージを膨らませ、どんなテーマや内容にするか話し合った。子ども達から次々とやりたいことが出され、テーマは「はまて駅」に決定。入口を改札に見立て、通路やホームを抜け、電車内を通り抜け、夜の森に迷い込む構成となった。子どもが自分達のアイディアで、駅名看板、時刻表、線路、ポスト、駅の階段などを作り、ボランティアは子ども達のやりたいことをサポートした。BGM 用に踏切周辺の音を録音してくる子がいたり、子ども達の発案でスタンプミッションを作ったりと、わくわくする内容となった。子ども達がやりたいことを自主的にのびのびと実現する姿が印象的だった。

【おばけやしき】8/23　金曜日　13 時半～15 時　参加者延べ 100 人

当日は 13 時に作戦会議の子ども達とボランティアが集合し、最終確認をしてスタートした。子ども達は「呪いの駅員さん」や「不気味で小さな案内人」などになりきり、来場者を驚かせた。電車好きの子はこだわりの切符を作り、受付の改札を担当した。

本番の役割は子ども達の希望にそって事前に決めていたが、事前に決めた役割の他に開始や休憩時間のタイムキーパーをする子がいたり、他の子達も、誰がどこでどう驚かせるか、全体の流れを自分達で見ながら動いたりしていて、子ども達の活躍が目覚ましかった。

おばけやしきは大人気で、子ども同士のグループや親子連れがたくさん来場し、行列を作った。電飾で少し明るいところもあったためか「全然こわくない」と言っている子も多かったが、スタンプミッションが楽しめる要素になっていて、無事に通り抜け、スタンプを集めた子は、とても誇らしげだった。

昨年度は前日準備や当日の片づけは職員とボランティアだけで行ったが、今年度は作戦会議の子ども達も一緒に行った。子ども達が長時間になると疲れないか少し懸念していたが、ボランティアとも交流しながら、準備から片付けまで一緒にしたことで、より自分の手で最初から最後までやる楽しみややりがいを感じられたようだった。

～作戦会議の子ども達のアンケートより～

（楽しかった）理由…おばけのなかまたちがいっしょにおどろかせたりしたから／おどろかすのが楽しかったし友だちもおどろかせてたのしかった／じゅんびするのが楽しかったです／色々つくれたから

～ボランティアの感想～

みんな楽しんでやっていました。いろんなアイディアを持って制作していました。／お子達のアイディアは我々の思いを越えてよかったと思います／みんな熱心におばけやしきでやりたいことやつくりたいことをやって満足そうでした。知らない子どうしでも声を掛け合ってやっていたのでよかった。

＜課題＞

子どもが大人と関わり参加・活躍できる場、子ども達が楽しめる場を作る。

―青少年対象事業―

ビストロはま～て

＜ねらい＞

子どもたちが楽しく調理することで、家庭でも簡単な料理ができるようになる。

＜状況・成果＞

8/10、10/5、11/30 または 12/1（＊注）　日曜日　10 時～12 時半（全 3 回）　受講者 9 組

講師：櫛本　有紀（櫛本農園）　岸上　美優紀（岸上農園）、ボランティア 7 人

子どもたちが生きる力を身につけることを目的に、今年度 3 館それぞれで取り組んだ子どもの料理講座。浜手地区公民館では、親子で調理することで親が手や口を出しすぎることを不安視し、調理は子どもだけで行い、料理ができた頃に保護者が来て一緒に食事をとる形にした。この形態が参加した保護者からも好評で、アンケートには「家で一緒に作業するともめる事もあるので、子どもだけで見てもらえるのは助かります」「親子で何かを作る時どうしてもできない部分に目がいき、しかってしまうことが多かったので、今回遠くからそっと見守ることができて良かったです」と書かれていた。

講師には、地域のカフェで月 1 回野菜販売を行う農業者の 2 人に依頼した。打ち合わせでは兼業で小学校の先生をしていたり元料理人だったりという経歴が聞け、2 人とも講師を務めることは初めてだが、子どもの食育にも関心があり、意欲的に話が進んだ。また、知り合いに子ども食堂を運営する人がいるということで声をかけてもらい、ボランティアとして協力してくれることになった。

定員を 12 組とし、二色学園、西・北・津田小学校にチラシを配布したところ、9 組の申込があった。定員割れであったが、講師やボランティアには皆子どもがいて、日曜の講座とあって子連れでの参加で大所帯となり、結果、9 組がちょうどいい人数だった。受講者の中には人見知りをする子もいたが、自己紹介の時間や共同作業を多く取り入れたことで、回を重ねるごとに、受講者もボランティアの子も関係なくワイワイ楽しく調理するようになり、知らない子ばかりの班の中でも打ち解けていく様子が見られた。

最終のアンケートでは 9 人全員が「また家でも料理をしたい」と答え、その理由は「楽しいから」「作れる料理が増えたから」「家族に喜んでもらえて嬉しかったから」等、主催する側としても満足な結果となった。ただ、子育てや仕事と農業をしている若い講師 2 人にとっては講座が負担になることもあったようだ。また、元料理人と教師という立場から料理に対する想いや考え方の違いもあることがわかり、講座後には、「簡単な料理を覚え家でも作ることができる」というねらいについて再確認した。

＜課題＞

定員などの再考と多忙な講師にとって負担の少ない日程調整が必要。

【メニュー】

1 回目	8/10	そぼろ丼、みそ汁、サラダ、ゼリー
2 回目	10/5	だし巻き玉子、茶わん蒸し、からあげ、キャベツ和え
3 回目（＊注）	11/30	ミートスパゲティ、デコレーションケーキ
	12/1	クリスマスワンプレート（ピラフ、スープ、サラダ、鶏肉パン粉焼き、カップケーキ）

（＊注）設定していた講座日が二色学園の祭りと重なり、講師が主体となり受講者を集め話し合った結果、2 日間に分けて開催された。また、講師が違うので、別メニューとなった。

新春あそびたい会

＜ねらい＞

子ども達が地域のボランティアから遊びやおもちゃ作りを教わり交流を深める。

伝統文化や昔遊びの継承のきっかけづくり。

＜状況・成果＞

新春あそびたい会　1/7　火曜日　13 時半～15 時　参加者 41 人　遊びボランティア 27 人

遊びボランティア打ち合わせ　12/16　月曜日　13 時半～　遊びボランティア 15 人

子ども達が遊びボランティア（以下、ボランティア）と一緒に、昔遊びや工作をする新春あそびたい会を、例年は始業式に開催するが、今回は休館日だったため 3 学期の始業式前日の午後に開催した。ボランティアの募集は、チラシ・ポスターを掲示するとともに、以前も参加した人を中心に声掛けし、あそび隊にも協力を依頼した。

ボランティア打ち合わせでは、それぞれの担当の遊びや工作内容と部屋割りを決め、必要備品や材料、当日の流れを確認した。今年もスタンプラリーを実施（7 か所）し、最後に景品を持ち帰れるようにした。

当日はホールに集合し、職員から子ども達に注意点やスタンプラリーの案内を伝え、ボランティアからは遊びの紹介を行った。

ホールでは、コマ回し・けん玉・ボウリング・テーブルホッケー・わなげ・おりがみを開催した。友達と（点数や出来栄えを）競い合って盛り上がった。ずっとコマ回しに取り組んだ子が、最後に回せるようになり、ボランティアと一緒に喜ぶ場面もあった。

和室の百人一首と将棋あそびは、後半になるほど人数が増え、札取りや将棋くずしなどで楽しく遊んだ。

講座室では、お手玉・おはじき・割りばし輪ゴム鉄砲、あそび隊による猿の木登り・ストロートンボ・ブンブンゴマ・かざぐるまなどの工作を開催した。おはじきやお手玉は、日ごろ見る機会が少ないため、子どもたちは遊び方を教えてもらっても何だか難しそうな顔だが、輪ゴム鉄砲は、マトに当てては、大はしゃぎしていた。あそび隊のコーナーでは、いろいろな種類のおもちゃ工作があり、自分で好きな絵を描いて、世界に一つだけのおもちゃを完成させ、得意そうに遊んでいた。

プレイルームではボンボンベッドあそびを催した。みんな楽しそうに飛び跳ねたあと、ボランティアと一緒に、風船をドライヤーの風で落とさないゲームを行い、汗だくになっていた。

すべての遊びコーナーを回った子もいれば、時間いっぱいまで一つのことに取り組む子もいて、それぞれの楽しみ方であそびたい会を満喫し、「楽しかった」と言いながら帰っていった。

ボランティアは子ども達が楽しそうに遊ぶ姿を見てやりがいを感じ、反省会では次回はもっと子どもが楽しめるように工夫したいと意欲的で、地域の大人と子どもが交流する良い機会となった。しかし年齢的にそろそろ限界を感じているとの感想もあった。

＜課題＞

世代間交流の場として、ボランティアの協力のもと事業を継続していく。

新規ボランティアの確保。

―青少年対象事業―

子ども居場所事業（はまて子どもパーク・＋KOMINKAN・レッツ TRY）

＜ねらい＞

子どもの安心安全な居場所、異世代・異年齢の人との交流の場の提供。

中高生の自主的な活動を支援する。

＜状況・成果＞

【はまて子どもパーク】

「はまて子どもパーク」（社会教育課主催の「放課後子ども教室」）は、月・木の曜日担当で行っている。今年度、長く続けてきたボランティアが引退し、新たに 4 人のメンバーが子どもパークボランティアに加入した。高学年の子どもにはあそびの見守りが中心だが、低学年の子どもには折り紙や編み物などを教えたり、将棋を教えてほしいと集まる子どもと対局したりした。ボランティアとの交流を楽しみにして遊びに来る子どもも多く、その都度子どもの要望に応えながら活動している。七夕の笹飾りやクリスマスツリーの飾りつけは、子どもたちの自由な発想で溢れ、ロビーを華やかにして来館者を楽しませた。

【＋KOMINKAN】

毎月第 4 日曜日　13 時半～15 時半　参加者延べ 88 人

協力：大阪体育大学　体育実技研究部

↑ 6 月スライム作り

小学生から大学生の居場所として開催。今年度はあそびの内容を告知することで、参加者増を目指した。さらに、春に大阪体育大学へ学生の協力を打診したところ、体育実技研究部（クラブ）が 6 月から関わってくれることになった。5～7 月は元々決めていたあそびを行い、また 6 月からはチラシに大学生が来ることも載せて近隣小学校へ配布したので参加の子どもが多かった。しかし 8 月、急遽、学生がクラブ合宿と重なり来られなくなり、楽しみに来た親子が帰ることになった。9 月以降は、公民館内でのチラシ掲示と SNS での発信のみで、参加者は少なめだ。

今年度も 12 月にパパサロンと合同でもちつき大会を開催。大学生 5 人がボランティアで参加し、お湯を運んだり餅をついたりと大活躍した。

【レッツ TRY】

今年度、浜手での登録は 1 組。引き続き、3 館合同でチラシを作成しインスタグラムに掲載しながら、利用者の拡大を図っていく。

＜課題＞

事業を継続させるため、引き続き広報や内容の工夫をする。

＋KOMINKAN については、大学生ボランティアとの調整をしっかりと行う。

鉄道模型　Ｎゲージ走行展示会

＜ねらい＞

子どもから大人まで人気のある鉄道模型を介して、世代間交流、及び日本の歴史ある鉄道文化や面白さを子どもたちに伝え、関心を持ってもらう。

＜状況・成果＞

8/3　土曜日　12 時～16 時　参加者 100 人

8/4　日曜日　10 時～15 時　参加者 150 人

展示者：鉄道クラブ代表　眞鍋　友昭

ロビーで行ったことにより、通りすがりの来館者が鉄道模型に気づき、子どもたちとコミュニケーションを取るという場面もみられた。また、国鉄時代や JR の記念切符、車掌の帽子や鉄道の歴史本なども展示し、参加者は興味深く見入っていた。

N ゲージの走行会は、未就学の子どもから大人まで、幅広い参加があり、各々に自前の鉄道模型を走らせ、競い合っていた。また、参加した大人が走行の操作方法や鉄道文化、列車の歴史の話をし、子どもたちがそれに聴き入り楽しむといった世代間交流と鉄道文化の促進に繋げた。

昨年以上の来館者があり、走行操作で 20 分以上の待ち時間が発生するという事態になったが、整理券を発行するなど、公平かつ安心して順番待ちができるようにした。また、鉄道模型の周囲にカラーコーンを設置し、小さな子どもたちが電車や線路に触れないよう、トラブル防止に努めた。

＜課題＞

参加者が自前の鉄道模型を出し入れする時のスペース確保、及び走行操作時間の配分について再考。

―子育て支援事業―

げんきに子育て

＜ねらい＞

子育て仲間と一緒に学んで交流し、子育ての悩みや情報を共有する。

乳幼児をもつ親が自身の時間を持ち、安心して学習や趣味などを楽しむ。

＜状況・成果＞

5/17～7/5　毎週金曜日　10 時～11 時半（全 8 回）　受講者 5 人　延べ 46 人　保育 5 人

日時	内容（講師）	受講者（保育あり）	受講者（保育なし）
5/17	オリエンテーション・交流会（保育ボランティア）	3 人	－
5/24	歯医者さんに教わる子どもを元気に育てるために今からできること（小島歯科医院副医院長　小島理恵）	5 人	－
5/31	ボクティス（いきいきのびのび健康づくり協会理事　梅本道代）　【公開講座】	4 人	6 人
6/7	歯医者さんに教わる子どもを元気に育てるために今からできること（小島歯科医院副医院長　小島理恵）	4 人	－
6/14	自分の体質を知り、アーユルヴェーダを暮らしの中に　【公開講座】（アーユルヴェーダフード＆ハーバルコーディネーター　本田典子）	5 人	10 人
6/21	もしもの時の応急処置（木島認定こども園、三ツ松認定こども園看護師）	2 人	－
6/28	レクリエーション（雨天のため「市民のもりへおでかけ」は中止）	4 人	－
7/5	まとめ・保育ビデオ鑑賞	3 人	－

保育つき講座は、昨年と同様 3 館で時期をずらして開催した。今年度は 5 組の親子が受講した。乳幼児がいる母親は、日中子どもと過ごす時間が大半で普段なかなか作れない自分の時間をもち、学習や交流をする機会とした。

保育を受ける子どものほとんどが 1 歳～2 歳だったこともあり、保育ボランティアと受講者が顔を合わせる初日は、それぞれ不安と期待のなかで迎えることになった。

第 2 回目は、「口の健康は身体の健康につながっている」という内容の話を聞いた。食べ物によって体幹が変化するという実験は説得力があり、これからの食事について考えるきっかけとなったようだ。

第 3 回目は、公開講座とし、一般の受講者と一緒に、ボクティスを行った。講師の計らいで初めて会った人同士がペアになりエクササイズしたことで、子育て中のママと一般の受講者が交流する時間となった。乳幼児期の子育て中は、運動する機会が少ないため、楽しく気持ちのいい汗をかき、リフレッシュする機会となった。

第 4 回目は、小島先生の 2 回目の講座で、前回の講座のリカバリーとして「健康に生きるために、成長するために大切なこと」という内容の話を聞いた。大人が子どもの変化に気付き、子どものしんどいサインを見落とさないことが大切だと教わった。

第５回目は、公開講座２回目。アーユルヴェーダ（生命の科学）論に基づく体質のチェックを行い、自分のエネルギーバランスの傾向を知り対処法やアーユルヴェーダを生活の中に取り入れる方法を教えてもらった。本格的なチャイの試飲もあり、自分自身に意識を向け、新しいことを知る機会になった

第６回目は、貝塚市立認定こども園の看護師を講師に迎え「こんなときどうする？熱中症について、頭をぶつけた・ケガをした、のどに何か詰まった・息ができない時の応急処置」の内容を話してもらった。予防することが大切だという内容に続き、普段の子どもの様子をよく見ておくことで変化があった時に気づくことができると具体的に教わった。専門家から直接話を聞くことで知識として得ることができたようだ。

第７回目「市民の森へおでかけ」は雨の為実施できず、ホールでレクリエーションをした。公民館に来ると保育に預けられると思い、母親から離れない子どももいたが、レクリエーションが始まると少しずつ離れて遊び始めた。新聞を丸めたり、投げたり、ビリビリ破って遊んだ後は、ボランティアから紙飛行機や紙鉄砲を作ってもらい新聞を使った遊びを満喫した。市民の森へ行けなかったのは残念だったが、親子とボランティアが一緒に遊ぶことができ、楽しい時間となった。

最終回はボランティアと一緒に、保育を受けている子ども達の様子を撮ったビデオを鑑賞した。講座期間に歩き方がしっかりした様子や、１人で遊んでいた子ども達が回を重ねると一緒に遊ぶ姿が見られ、子ども達の成長を見ることができた。そして受講者からボランティアへ感謝の気持ちが伝えられ、ボランティアからは講座期間の子ども達の様子を話してもらった。ボランティアの子育ての話を聞き、受講者が困っていることにアドバイスをもらう時間も持てた。

受講人数は少なかったがボランティアや講師、公開講座の一般受講者とのコミュニケーションは取りやすかった。転居ではじめて公民館にくる子育て世代の親子が増え、徐々に子育て世代の賑わいも戻りつつある中で、受講者同士が交流を深めることが大事だと認識した１年だった。

【受講者の感想】

歯医者さんに教わる子育ては、先生の説明も分かりやすく、その日から取り入れたいことばかりでした。ボクティスはとてもいい汗かけました。子育て中でない方とも交われた講座でした。/アーユルヴェーダは体を知る、自然や今あるものをリスペクトし、無理なく生きていくことを教えてくれるので、子育て中定期的に触れ合っていきたいと思います。/子どもにとって親以外のあたたかい目で接してくれるボランティアさん達の存在が大きかったと思います。/ボランティアさんの方々もいつも泣く我が子を笑顔で抱っこして遊んでくださって、すごく安心してまかせることができました。本当に感謝しています。

＜課題＞

子育ての学びを意識した内容の充実。

受講者同士が交流を深めるきっかけづくり。

パパサロン

＜ねらい＞

転居の多い地域性を考慮し、新しい参加者の取り込みと、継続した父親の仲間づくり。

家族で参加できる機会を設け父親の参加を促す。

親子が過ごせる居場所づくり。

＜状況・成果＞

5 月～12 月　第 4 日曜日（全 7 回・8 月休講、10 月は 11/3、12 月は第 2 日曜日に変更）10 時～12 時（11/3 は 10 時～11 時、12/8 は 10 時～13 時）　参加者 24 組（70 人）延べ 57 組（144 人）

月/日	内容	講師（協力）	参加組
5/26	【家族参加可】 人形劇	夢ふうせん	10 組 22 人
6/23	【家族参加可】 おやこでバルーンアート	にじいろ風船師　みずきさん	11 組 30 人
7/28	水あそび／トマトの収穫	相互	6 組 12 人
9/22	牛乳パックでいす作り	相互	7 組 14 人
11/3	いもほり	相互	6 組 12 人
11/24	【家族参加可】 やきいも	相互	8 組 23 人
12/8	【家族参加可】 もちつき大会【プラス KOMINKAN 合同開催】	相互／プラス KOMINKAN ボランティア	9 組 ※31 人

※プラス KOMINKAN（小学生 2 人）を除く

パパサロンは、就学前の子どもと父親対象の講座で、受講者を増やすために初参加や 1 回限りでも参加しやすい内容としている。

5 月の「人形劇」は、開演を待つ子ども達を人形で楽しませてくれ、子ども達はワクワクしながら始まるのを待った。いろいろな動物が登場する人形劇とエプロンを舞台にした人形劇を鑑賞した後、手あそびやクイズ、ワークショップを家族で楽しんだ。

6 月はバルーンアートショーと体験会を行い、音楽が流れる中パフォーマンスと共に作品が作られていくのを楽しみ、体験会では「剣」と「魚」作りに挑戦した。

7 月は父親と子が気軽に参加しやすい水あそびを行った。今年度初めて父親と子どもだけの参加だったからなのか、参加者間にぎこちない雰囲気が残る中終了した。

後期は 9 月に「牛乳パックでいす作り」をした。父親と子どもが相談しながらいすを作り、完成後は子ども達が「親子で作ったいす自慢」を発表する時間を設けた。それぞれこだわりがあり、子どもが伝えられない所は父親が補足して発表してくれた。

11 月、12 月は屋外を中心に企画した。10 月はふれあいまつりと重なり 11 月 1 週目に「いもほり」をした。子ども達は宝探しのようにさつまいもを収穫し、幼虫をみつけるなどして土の感触を味わった。

11 月 4 週目は、昨年から引き続きかいづか家族の日にちなみ母親も参加可とし、恒例の「やきいも」をした。年々参加者が増え 30 人前後が集うため、炭の火おこしは事前に職員で行ったが、その後は父親達が中心となり炭の追加や火力の調整、焼き上がりまでを体験した。焼いている途中でアルミホイルが剥がれて新聞紙に火がついてしまうアクシデントも、父親達のチームプレーで対応し、無事美味しそうなやきいもができた。子ども達はさつまいもを洗いアルミホイルで包んだ後、落ち葉やどんぐりを見つけ拾ったり、虫を捕まえたり、畑の土を掘って遊んだ。大きな白い紙を用意すると、葉っぱやどんぐりを自由に貼り、野外での活動を楽しんだ。

12 月はパパサロンと+KOMINKAN（青少年対象事業）の合同で、もちつき大会を開催した。小学生の参加と+KOMINKAN ボランティアの大学生も参加があり、もちをつき、子ども達と一緒にもちを丸め楽しんだ。昔ながらのもちつき体験は、子どもはもちろん親世代にとっても経験が少ないため、参加者全員が関われるようにした。継続して参加した父親と子ども達が積極的に関わってくれたことで初参加の家族も参加しやすくなり、参加者が一体となりもちつき大会を行うことができた。

新年度を迎えた 5 月、6 月は広く知ってもらうために家族で参加できて楽しめる内容にした。7 月の講座で父親達のぎこちなさを感じたため、9 月からは父親が活躍できる機会をつくるなどの工夫をすると、11 月のやきいもや 12 月のもちつき大会では、父親達が互いに協力しながら楽しんでいる様子を見ることができた。11 月以降は定員を超える申し込みとなり、先着順としていたため、これまで継続して参加している親子が受講出来なくなる状況もあり、初参加と継続した参加のはざまで担当者を悩ませることがあった。

＜課題＞

父親が参加しやすい企画運営に努める。

継続した父親の仲間づくりのための講座の持ち方、開催方法を検討する。

―子育て支援事業―

SALON BeBe

＜ねらい＞

0 歳から未就園児親子の居場所・交流の場。

子どもの“あそび”について考える場。(英語あそび・造形あそび)

＜状況・成果＞

4/2～3/25　毎週火曜日（47 回）　10 時～12 時　参加者延べ 103 組（223 人）

【第 2 火曜日（10 回)】「英語あそび」10 時半～11 時半　協力：英語あそびボランティア

【第 4 火曜日（12 回)】「造形あそび」10 時半～11 時半　協力：保育ボランティア

乳幼児親子がいつでも気軽に集える場として、毎週サロンを開催している。参加人数は週によってばらつきがあるが、新たな顔ぶれも見られるようになった。

第 2 火曜日には英語あそびボランティアによる英語あそび、第 4 火曜日には保育ボランティアによる造形あそびを実施している。今年度はボランティアと共に造形あそびの内容を考え、毎月チラシも作成した。第 1・3 週のフリーサロンでは見かけない親子の姿もあり、内容に興味を持って参加してくれていることがわかる。一緒に制作をするなどのきっかけから親子同士の交流も生まれており、「来週は来る？」などの会話が交わされていた。転勤が多いパークタウンの土地柄もあるのか、近くに知り合いがいないという母親も多く、公民館で新しい出会いを求めている様子を感じることもあった。保育ボランティアがいるときには、日々のちょっとした不安や悩みを打ち明けるなど、気軽に相談できる第三者の存在が必要であることを再認識した。

今年度、公民館公式 SNS を開設したことにより、さらに若い世代への広報が可能になった。インスタグラムを見て、「今日はおばけやしきってかいてたので来てみました！」と SALON BeBe 以外の事業にも遊びに来てくれる親子がいるなど、SNS での広報が大変効果的であることがわかった。

＜課題＞

転勤の多い土地柄なので、情報を得てもらいやすいようあらゆる方法で広報を行う。

参加者（市民）の意見を取り入れ、さらに利用したくなるようなサロンの内容を検討していく。

造形あそびの内容

4/23・・・ボールコロコロ
5/28・・・シール貼り
6/25・・・容器がいっぱい
7/23・・・金魚すくい
8/27・・・金魚すくい
9/24・・・どうぶつたいそう
10/22・・・ハロウィン撮影会
11/26・・・落ち葉ひろい
12/24・・・クリスマスオーナメント作り
1/28・・・絵合わせカルタ
2/25・・・ひなまつり制作
3/25・・・お庭でピクニック

↓英語あそび

↓落ち葉ひろい

子連れヨガ

＜ねらい＞

母親のストレス解消、交流の場。

＜状況・成果＞

第 5 火曜日（4/30、7/30、10/29）　10 時半～11 時半　参加者延べ 29 人

講師：MIKI（まちのすぐれもの登録者）

母親が子連れでも運動・リフレッシュできる場として子連れヨガを開催している。この講座では子どもも同じ空間で、皆で子どもを見守りながらヨガをしている。講師から毎回「子どもさんがうろうろしてても大丈夫！子どもさんの様子をみながら、ヨガに戻ってきてくれたらいいからね」と声掛けがあることで、受講者は安心して参加することが出来ている。ヨガは、産後の母親が気になりがちな骨盤矯正に効くような内容になっていて、講座終了後、「子どもが生まれてから久しぶりに運動できて気持ち良かった」「体型を戻すために定期的に参加したい」と満足した様子で受講者同士感想を話し合っていた。

＜課題＞

母親が安心して参加できるリフレッシュの場の継続。

―成人対象事業―

スマホらいふ～もっと便利に、もっと楽しく♪～

＜ねらい＞

高齢者がスマートフォン（以下、スマホ）の操作に慣れ、楽しみながら生活や防災に役立てる。

＜状況・成果＞

4/23～3/25　第 4 火曜日　10 時半～12 時　受講者延べ 72 人

講師：中庭　陽子（まちのすぐれもの登録者）

昨年度まで行なっていた「認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ」講座の受講者から、「同じ内容でもいい」「何度でも教えてほしい」「アイフォン版もしてほしい」という声を聞き、今年度からはスマホの機種を問わず月 1 回の単発で行い、気軽に申し込めるよう企画した。しかし、定員を先着順に 6 人としたため、希望者が多くなってくると次第に、申込開始日の朝 9 時には数人が窓口に並ぶようになった。近くに住む人は毎回受講できるが、家が遠かったり初めて申し込む人にとっては申込しにくい状況となり、公平性を保つために 10 月からは、全 3 回の講座として抽選で受け付けるように変更した。

講師は、まちのすぐれもの登録者に依頼し、事前に毎月のテーマを決めてもらった。詐欺メールが怖くてスマホを積極的にさわれない人が多かったことを話すと、毎回、初回受講者に詐欺メール注意喚起の冊子を渡してくれた。さらに、災害時に活用できるように、毎回ライトのつけ方を確認。受講者の中にはライトの付け方を知らない、つけたことがない人も結構いて、ついた瞬間「おー、すごい！」と感心していた。

講座は、その日に一つの操作を覚えて帰ることができるように、ゆっくりしたペースで進む。受講者が少なくても、スマホの機種やバージョンによって操作方法が違うので、一対一で説明することも多く、職員もサポートに回っている。また後半 30 分ほどは雑談の中で、テーマ以外のことも質問できる時間としている。特に 3 回連続講座に変更してからは、その日に解決しないことを次の回で教えてもらえて、皆満足そうだった。時々、公民館への要望もあり、「もっと定員を増やしてほしい」「月 1 回では忘れてしまう、隔週でしてほしい」という声もあった。スマホ操作のレベルの違いや知りたいことは人それぞれだが、テーマを明示することで受けたい講座を選択しやすいようだ。常に笑顔で親身に受け答えする講師の人柄もあり、受講者が笑顔になって帰る姿が印象的であった。

開催日	テーマ（内容）
4/23	プレオープンお試し講座
5/28	初めてのスマホ基本編　自分のスマホ　機種は何？
6/25	ラインの基本　友達追加　スタンプなど
7/23	ラインの入力　文字入力　音声入力
8/27	ライン　写真を送るには　防災時に役立つライン機能
9/24	カメラ講座　撮り方　静止画　動画
10/22 11/26 12/24	（全 3 回）カメラ講座 ・撮り方から写真の加工まで ・アルバムを作ってみよう
1/28 2/25 3/25	（全 3 回）ライン講座 ・友達追加　スタンプ ・入力　災害時に役立つ機能 ・写真を送るには

＜課題＞

さまざまな要望に合わせてテーマや日程を考えていく。

続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

フレイル予防・筋力アップを目指し、全身運動につながるノルディック・ウォークを体験する。

＜状況・成果＞

4/30、5/7、5/14、5/21　火曜日　14 時～16 時（全 4 回）　受講者 18 人

講師：古澤裕文、宮内千代子、中西紀美代（大阪府ノルディック・ウォーク連盟南大阪支部）

昨年度はクラブ支援を目的に開催したが、今年度は高齢介護課との共催講座とした。

4 月末日、汗ばむ初夏を感じさせる陽気のもと開講した「続ける！ノルディックウォーキング」。初心者はドキドキしながら、経験者は軽やかな足取りで、2 階ホールに集まった。

はじめに、ウォーキングの方法やポイントなどを、講師が説明しながら実演し、準備運動のあと、ホールでポールを持って高齢介護課職員もいっしょにノルディックウォーキングを体験。その後、受講者らは、市民の森までアドバイスを受けながら歩き、到着後の広場で、ポールを持つことで、歩行がどのように変わっていくのかを実感するため、歩行測定を行った。受講者は、普段どおりに歩いているつもりだが、やはり測定という言葉に緊張するのか、手と足がいっしょに出る人もチラホラいた。

講座の中では、足にフィットする靴ひもの結び方も学び、教わったとおりにひもを結びなおすと、靴が足にフィットし、「たしかに歩きやすくなった」と受講者からも驚きの声が上がった。

2 回目からは、坂道での歩行ポイント、階段の昇降方法など、様々な場面での歩き方を体得しながら、二色の浜海水浴場まで、阪神高速臨海線高架下を歩いた。

講座最終日は、再度、歩行測定を行い、4 回の経験を踏まえ成果が出た人、出なかった人、様々だった。そのあとは二色大橋を越え、大阪府海浜緑地、国華園をまわり、浜風が心地よく受講者の身を包み込むなかで、講座は終了した。

―参加者の感想―

・知らないことをたくさん教わりました。講師の方、暑い中有難うございました。

・ストックを使うことが当たり前ですが、すぐには出来ずに、反対に体がかたくなり、ぎくしゃくして…でもいつもていねいに優しく教えてくださり、ありがたかったです。

・みなさん親切に、楽しく講習を受けることができました。

・いま足を怪我していて、松葉づえからノルディックポールに換えるきっかけになって良かった。今後も参加したい。多くの人に広めてほしいです。

・ていねいに教えていただき、家に帰っても歩こうと思います。

・いつも最後尾を歩いた私。根気よく、やさしく励ましてくださる講師の方には感謝です。頑張る気持ちを引き出してくださいました。

＜課題＞

経験問わず、気持ちよく歩くことのできるコースを選定する。

高齢介護課との共催で、引き続き開催に努める。

―成人対象事業―

シルバーライフ

＜ねらい＞

高齢者（65 歳以上）の居場所・仲間との絆づくりの場。

社会情勢などに目を向け関心をもつ場。

＜状況・成果＞

5/9～12/5　木曜日（7/11～8/29 は休講）10 時～12 時（全 23 回）　受講者 36 人

65 歳以上の高齢者の居場所づくり、仲間との絆づくりの場として、毎年開講している。2024 年度の開始にあたり、新たな仲間の募集もおこない、36 人の受講者が約一年を通して、様々なことを体験してきた。今年は、館外での「施設見学」を増やし、またコロナ禍で開催しづらかった「料理づくり」を内容に組み込んだ。

第 1 回「自己紹介」では、新たに参加する受講者にも早くなじんでもらおうと、仲間づくりを意識して、班ごとに座談会形式で行い、シルバーライフが開講した。

第 2 回、5 回、10 回、19 回、23 回の「健康寿命を延ばす」は、前年度に受講者から要望が上がっていた講座を組み込んだ。貝塚市出身の講師から、高齢にともなう心身の変化を知識として得ることで、予防方法や対処方法を知り、いつまでも健康で暮らすための方策を学んだ。受講者らは、講師のたのしい話術に耳を傾け、メモを取りながら、正しい姿勢を保つ体操や認知症予防につながる手足の運動などに取り組んだ。次年度の要望でも、多くの受講者が「是非とも継続して話を聞きたい」と感想を挙げていた。

この講座同様、受講者の声を生かしたのが、後期に盛り込んだ第 11 回「紙染め」、第 18 回「みかん狩り」、第 21 回「高齢者福祉計画を知ろう」だ。

第 7 回は、中央公民館で活動している遊び隊の皆さんを講師に迎え、「子どもが喜ぶおもちゃを作ろう」を開催した。身近なものである牛乳パックを使ったサイコロ、ストローを軸にした風車（かざぐるま）の作り方を教わった。いざ作り始めると、サイコロの目シールの貼る位置に悩んだり、折り方を間違えて回らない風車ができたり、みんなで真剣かつ笑いながら工作をして完成させた。講座後、「孫に見せる」と笑顔で風車を回しながら帰る受講者が多くみられた。

第 20 回では大阪市西区の「津波・高潮ステーション見学」を行った。1/1 発生した能登地震、夏場の台風接近…日本に住む私たちは、いつ自然災害に見舞われるかわからない。自身や家族の命、財産を守るためにも、事前の備えが重要である。シルバーライフ受講者は浜手地域の在住者が多く、地震による津波、台風による高潮は避けて通れない。受講者らは、過去の台風による被害状況写真や近々発生すると言われている東南海地震などの津波予想図を見学しながら、いざ災害となったときに、何を持って、どこに避難するのかを考える機会となった。

ふれあいまつりへの参加について、第 8 回「座談会」で受講者の声を集めたところ、「参加したい」との意見が多く出された。何で参加するかを決めるにあたっては、昨年と同じ「合唱」と「バザー」の二案が挙

がり、みんなで話し合った末、今年は「バザー」での参加と決めた。その後の、ふれあいまつり実行委員会には、Kさん、T さんが代表して参加し、第 16 回、17 回の「ふれあいまつり準備・仕上げ」で、受講者みんなが商品を持ち寄り、値札を貼ったり、役割分担を決めたりした。10/27 のまつり当日は開店と同時に、たくさんの人がバザーに訪れ、積み上げられていた商品が次々と売れていった。

全体を通して、班で話し合う時間を十分に取れなかったことから、班長に負担をかけた感じがあり、主体的な仲間づくりを欠いたことを反省しつつ、引き続きよりよい人間関係が築ける講座となるよう努めたい。

【2024 年度シルバーライフプログラム】

回	月日	内　　容	講　師
1	5/ 9	開講式・自己紹介	相互
2	5/16	健康寿命を延ばす①フレイル予防	元林観（神楽鍼灸マッサージ整骨院）
3	5/23	座談会（健康の秘訣）＆介護予防マイレージ	相互
4	5/30	みどりの食料システム戦略について （ＳＤＧｓを身近に）	近畿農政局大阪府拠点職員
5	6/ 6	健康寿命を延ばす②いい姿勢とは	元林観（神楽鍼灸マッサージ整骨院）
6	6/13	恩おくりについて（公民館大会のビデオ観賞）	相互
7	6/20	子どもが喜ぶおもちゃを作ろう	遊び隊（中央公民館クラブ）
8	6/27	座談会（ふれあいまつり＆ふりかえり）	相互
9	7/ 4	卓球バレー	相互
10	9/ 5	健康寿命を延ばす③自律神経とは	元林観（神楽鍼灸マッサージ整骨院）
11	9/12	紙染め	松本啓子
12	9/19	明治ヨーグルト館見学	施設職員
13	9/26	脳トレ	相互
14	10/ 3	みんなで料理（デコレーションいなり ほか）	大西隆子（浜手地区公民館ボランティア）
15	10/10	日本経済の復活…	町田昌弘（シルバーライフメンバー）
16	10/17	ふれあいまつり準備	相互
17	10/24	ふれあいまつり仕上げ	相互
＊	10/27	ふれあいまつり出店	
18	10/31	みかん狩り	やぶ果樹園
19	11/ 7	健康寿命を延ばす④血圧と体温	元林観（神楽鍼灸マッサージ整骨院）
20	11/14	津波・高潮ステーション見学	施設職員
21	11/21	高齢者福祉計画を知ろう	高齢介護課職員
22	11/28	座談会（ふりかえりと自主活動）	相互
23	12/ 5	健康寿命を延ばす⑤認知症予防＆修了式	元林観（神楽鍼灸マッサージ整骨院）
＊自主活動（1/23 新年会、2/20 演劇鑑賞会、3/13 加太国民休暇村、4/3 グラウンドゴルフ）			

【受講者の感想】

・津波・高潮ステーション、あらためて津波・高潮の怖さを知りました。
・おもちゃ作り、紙染め、料理は楽しかったです。
・健康寿命の話は勉強になりました。課外活動も老いを忘れさせてくれます。

―成人対象事業―
・バランスの取れた講座で楽しかったです。特に郊外の活動は、みなさんとコミュニケーションが計れて良かったです。
・生活に関する内容が少なかったような気がします。
・介護の話はこれから自分におこる事なので良かったです。
・もっと外に出て運動したかったです。
・ふれあいまつりについての話し合い時間が少なかった。
＜課題＞
仲間作りの仕掛けを常に意識しながら取り組む。
受講者のやりたいことをどこまで内容に組み込むかは、一考する必要がある。

14 回 みんなで料理

9 回 卓球バレー

終活へ いらっしゃ～い♪

＜ねらい＞
なかなか聞けない終活準備についての、ノウハウを得る。
不安を解消し、人生 100 年時代を愉しく過ごせる一助にする。
＜状況・成果＞
(前期)6/28、7/5、7/12　金曜日　10 時～11 時半（全 3 回）　受講者 32 人
「終活」という言葉を日常的に耳にするが、何から始めればいいのか悩んでいる市民が多く、きっかけ作りのため、昨年度好評だった 3 回連続講座を今年度も企画した。内容は昨年度と同じく、生前に残す「エンディングノート」「遺言書」、亡くなったあとの「葬儀・墓地」「相続」に加え、普段目にすることの少ない「棺箱」の入棺体験も行った。
2 度目の開催となる今回も定員 35 人としたが、47 人の受講申し込みがあり、抽選を行った。
「エンディングノート」は、市内の葬儀事業者に講師を依頼し、記載の留意点を話してもらった。受講者は、思いや意志を残すために、真剣な面持ちで記載する内容などを聞きながら、各々の人生を振り返っていた。併せて、現物の棺を触ったり、中に入ったりして入棺体験をした。「思ったより寝心地が良かった」「入棺体験して良かった」との感想があった。
「遺言書保管制度、相続登記の義務化」では、法務局での遺言書保管制度を利用することで、個人の意思を尊重するとともに、遺言書が通知され子どもたちのいさかいを解消するという長所を学んだ。しかし簡単に作れる分、もちろん短所もあり、財産相続の細やかな指示については司法書士など専門家への相談を奨励していた。相続登記については、所有者不明土地が問題となっているこ

とから、義務化に至った経過を話しつつ、登記に関する税の免除制度や添付書面の簡素化が図られたことが説明された。「自身の死後、家族がもめないように遺言書を書いておこうと思う」「法定相続人情報証明制度を活用したい」と好評な感想の一方、「理解するのが難しい」との声もあった。

「葬儀・お墓・永代供養」では、近年、墓じまいという言葉をよく耳にすることから、多くの受講者はその方法を知りたがっているため、講座の中に盛り込んだ。併せて、亡くなる前からの準備、死亡後の手続きやお墓への埋蔵についての話に、ペンを走らせていた。「葬儀やお墓を考える機会になった」「身近な話だった」と、前向きな感想が寄せられた。

日　程	内　容	講　師
6 月 28 日	エンディングノートを書こう（入棺体験付き）	株式会社日本セレモニー辻
7 月　5 日	遺言書保管制度、相続登記の義務化ってなに？	大阪法務局岸和田支局職員
7 月 12 日	どうする？葬儀・お墓・永代供養	浜手地区公民館職員

(後期)1/24、1/31、2/7　金曜日　10 時～11 時半（全 3 回）　受講者 21 人

（前述どおり）2 度目の「終活」講座も受講希望者が多かったため、年明けに 3 回目を開催することにした。

今回は、「遺言書保管制度、相続登記の義務化」の講師について、これらの手続きを生業としている司法書士事務所に依頼した。と言うのも、法務局職員では手続きの説明はできても、どのようにすれば相続税などの節税ができるかなど、受講者が本当に聞きたい核心を、立場上話せないという制約があったためだ。

3 度目の講座も、定員 35 人としたが、申し込みは 21 人にとどまり、「エンディングノート」、「葬儀・お墓・永代供養」については、夏に開催した前回とほぼ同じ内容ですすめた。

「遺言書保管制度、相続登記の義務化」については、講師が実際の依頼された事例に基づいた話で始まった。特に、子どものいない方は遺言書を活用すべきという話は、受講者の関心が高かったようだ。遺言書が無い場合、故人が残した財産すべてが配偶者に相続されると思い込みがちだが、法定相続人となる（故人の）両親や兄弟姉妹にも相続割合が生じるという話に受講者は驚いていた。相続登記の義務化については、「義務化に伴い、過料罰が課されることになった」「登記件数が増え、所有者不明土地解消へ一歩を踏み出した」と制度内容や効果などを話しながらも、「過料罰は義務違反を確定することが非常に困難であり、絵に描いた餅になる」との懸念も表明していた。質疑応答の中では「相続した田舎の土地の処分策」「相続税の算出方法」などに、丁寧に答えてもらった。

感想には「遺言書作成の必要を強く感じていたが、話を聞いたことで、具体的に進めたい」などが寄せられ、終活のきっかけになる一役を担えたようであった。

前期・後期 2 度にわたる講座後のアンケートでは、終活についての不安や悩みは解消した人もいた半面、増大した人やわずらわしさが増したと言う人もいて、考えるきっかけにはなったが、不安は尽きない一端が見え隠れした。

日　程	内　容	講　師
1 月 24 日	エンディングノートを書こう（入棺体験付き）	株式会社岸和田グランドホール
1 月 31 日	どうする？葬儀・お墓・永代供養	浜手地区公民館職員
2 月　7 日	遺言書保管制度、相続登記の義務化ってなに？	新川司法書士事務所

＜課題＞

「終活」に踏み出すきっかけ作りや不安解消のため、内容を精査しながら継続的な開催に努める。

―成人対象事業―

かしこく夜活

＜ねらい＞

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとする。

＜状況・成果＞

（前期）

5/16、5/23、5/30、6/6、6/20　木曜日　19 時～20 時半（全 5 回）　受講者 24 人

夜の時間を活用して、公民館で楽しくいろいろなことが学べるよう、全 5 回、各回違う内容を組んだ。約半分が現役世代で、男性は 4 人だった。

1 回目には、お互いを知り講座の中で交流ができるように、「自己紹介」の内容とした。講師のアドバイスを受けて、それぞれの持っている想いや、人となり、生活の物語がうかがえる自己紹介をし合い、お互いを知ることができた。

「川柳とあそぼう」では講師が楽しい川柳作品をたくさん紹介してくれ、虫食い川柳のクイズをした後、「花」をテーマに実際に川柳を作った。できた句から、それぞれの人柄や生活などが垣間見えた。作るのに苦戦する姿もあったが、生活の中でうれしかったことなどを作品にでき、「大満足」との感想も寄せられた。

「アロマソープづくり」は、エッセンシャルオイルやハーブを使い、思い思いの香り・色・デザインの石けんを作った。良い香りに包まれて、和やかな空間となった。

アロマソープづくり

最終の「歌ってみよう♪」は、受講者からのリクエスト曲を中心に、ピアノに合わせて歌った。7 月からの「よる☆うた」講座へと続く内容とし、受講者を、次の講座へとつなげた。交流会では、講座の感想を交換した。「夜活は毎回いろんな内容があるのが良い」という感想の他、「夜活をきっかけに川柳の投稿を始めた」など、受講者の世界が広がるきっかけとなったことがうかがえた。

前期プログラム

月/日	内　　容	講　師
5/16	心に響く自己紹介～「経歴」より「想い」を伝えよう～	吉村佳美(まちのすぐれもの登録者・話し方講師)
5/23	川柳とあそぼう	吉道博章(浜手川柳クラブ講師)
5/30	アロマソープづくり	上野千賀子(まちのすぐれもの登録者)
6/6	ヨガのキホン～太陽礼拝～	根木圭子(ヨガ講師)
6/20	歌ってみよう♪/交流会	花篤孝子(まちのすぐれもの登録者・音楽講師)

～アンケートより～

皆様の自己紹介が全員の方すべて心に響きました。(5/16) /川柳は初めてでしたが、先生に添削して頂き、楽しかったです。豊かな言葉あそびとも言える川柳に、はまりそうです。(5/23) /作ってそして使えるのがとってもうれしいです。どんな風にしようかなと考えるのが一番楽しかったです。後は家で使ってリラックスしようと思います。(5/30) /初めてヨガを体験しました。関節の硬さを感じつつ、身体の左右のくせを感じつつ、気持ち良かったです。(6/6)/楽しくみんなで歌をうたう事ができてよかったです。先生のけんばんハーモニカもすてきでした。次回も参加できたらうれしいです。(6/20)

（後期）

11/7、11/14、11/21、12/12　木曜日　19 時～20 時半（全 4 回）　受講者 20 人

約半分が現役世代で、男性は 2 人だった。

1 回目は、これまで要望の多かった「みそ作り」を実施した。講師に相談し、仕込んでから正月に白みそ雑煮で使える 11 月初旬に設定した。講師から作り方の説明を聞いた後、班ごとにゆで大豆をフードプロセッサーにかけたり、塩や麹と混ぜたり、ワイワイとおしゃべりをしながらとても賑やかに作業が始まり、見ていて圧倒されるぐらいの盛り上がりとなった。作業後も各班でおしゃべりして交流する時間があり、1 回目から場があたたまり、2 回目以降の講座に期待感が高まった。

「ボクティス」は、元気に盛り上げながら進めてくれる人気講師の講座で、汗だくになりながら、全身を思い切り動かした。講座をきっかけに、自主グループに参加した受講者もいた。

「バイオリン」では、開始前にも講師が受講者に話しかけ、受講者がバイオリンのことなど、知りたいことを質問しやすい雰囲気を作っていた。1 時間の中で、作曲家の解説も組み込みたくさんの曲を披露してくれた。交流会では、4 つの窓自己紹介を取り入れ、情報交換をした。

「朗読」では、演劇のワークショップの手法を取り入れたゲームなどを行いそれぞれの持つ声を引き出した後、2 グループに分かれて詩を朗読した。ただ読むのではなく、体の動きを含めてどのように表現するかそれぞれのグループで話し合って決めていき、発表した。同じ詩でもグループによってまったく違った表現になり、短時間でそれを形にした講師、受講者双方の力を感じた。最後は感想を伝えあい、みんなやり切った良い顔で、講座を終了した。

開催して 4 年目になる「かしこく夜活」だが、毎回交流する時間をもち、受講者の次の活動につながる声掛けをしている。続けることで、現役世代の公民館活動の定着につながった。

後期プログラム

月/日	内　　容	講　師
11/7	みそ作り	山中弓子(まちのすぐれもの登録者・調理師)
11/14	ボクティス	梅本道代（Physical Heart®）
11/21	秋の夜長をバイオリンで/交流会	大井規子(バイオリン奏者)
12/12	楽しく朗読を体験しよう	岩橋由梨(ことの葉クラブ講師)

みそ作り

～アンケートより～

大勢でワイワイして楽しくできました。是非、自分で家で作ってみようと思います。(11/7) /初めて体験したのですが思ったよりハードでした。完走できたのがうれしかったです。また機会があれば参加したいです。(11/14)/バイオリンの独奏って初めて聞かせていただきました。すてきな音色でいろいろな曲を弾いていただきありがとうございました。(11/21) /ろう読の講座をうけて、イメージしてから音読をすればきこえ方が変わったりするのが楽しかったです。(12/12)

＜課題＞

引き続き夜の講座を実施し、若い世代、現役世代の更なる公民館利用の拡大、定着を図る。

自主活動やボランティア活動などにつながる講座の組み立て。

よる☆うた

＜ねらい＞

日中仕事をしている人の公民館利用につなげる。

舞台発表を目指すことで、やりがいを持てるように支援する。

他の利用者と交流を深め、講座終了後、グループ活動をすすめる。

＜状況・成果＞

7/11、7/25、8/8、8/29、9/12、9/19、10/3、10/17、10/24　木曜日　19 時～20 時半

10/27 ふれあいまつり出演

11/8、11/22　金曜日　19 時～20 時半

11/30 色とりどりの音楽会出演（全 13 回）　受講者 19 人

講師：花篤　孝子（まちのすぐれもの登録者・音楽指導者）佐野　未波（ピアニスト）

「かしこく夜活」講座のひとコマで実施した「歌ってみよう♪」の講師に依頼し、ふれあいまつりを含め舞台発表を目指す歌の連続講座を企画した。これまで歌の講座の要望を何度か受けていて、継続した活動を希望する市民も多いと考え、グループ活動へつなげることも視野に入れた。

まず、「歌うのが初めての方でもどうぞ。曲はみんなで決めましょう。」と打ち出しふれあいまつりの舞台発表を目指す講座として募集すると、初心者を含めた 20 歳代から高齢者まで 19 人が楽しく歌いたいという思いで集まった。内 5 人が男性だった。

毎回の講座ではまず体をほぐして声を出しやすくし、それから声を響かせるコツなどを教えてもらいながら発声練習。楽譜を見て皆で歌い、少しずつ歌を覚えていった。最初は声がなかなか思うように出なかったという人も、回を重ねるごとに響きのある、良い声が出るようになっていった。

参加者と講師で曲の案を出し合い、何度か試しに歌っていく中で、皆の気持ちが乗って歌えるものを選定し、ふれあいまつりで歌う 3 曲を決定した。歌う曲が決まると、パート分けをして少しずつハモリもつけていき、できるようになると達成感も高まっていった。

本番用の手持ちの楽譜には、受講者の 1 人が自主的に描いて持ってきたイラストを採用することになり、皆で表紙をそろえた。

ふれあいまつりでは歌にばらつきが出ていたが、その次の講座時にビデオを見て振り返ると、皆真剣に周りの声に合わせて歌うようになった。講座最後の発表の場とした文化事業「色とりどりの音楽会」では、皆が気持ちを一つにして、きれいなハーモニーで歌うことができた。

皆で舞台発表の目標に向かって練習し発表の場も経験することで、受講者間で一体感が生まれ、講座後は、11 人が継続してグループ活動をしていくこととなった。

～アンケートより～

皆さん良い方ばかりで、一緒に楽しく歌えてありがとうございました。色々と勉強になって、とても楽しく参加できました。ありがとうございました。/声を出すのが苦手ですが、歌をうたうのは好きだったので、広報でよる☆うたをみつけて電話し参加することができました。本当に楽しく参加することができました。/欠席したりでしたが歌うこと、音楽を愛する先生のお気持ちが毎レッスンにあらわれていて楽しかったです。声楽の基本も教えていただいて感謝です。

＜課題＞

若い世代、現役世代の公民館活動の定着とグループ活動の継続。

受講者が主体的に活動する講座の組み立て。

ボディメイクピラティス

＜ねらい＞

若い世代のワークライフバランスの充実と公民館利用のきっかけづくり

＜状況・成果＞

6/17、6/24、7/1、7/8　月曜日　19 時半～20 時半（全 4 回）　受講者 16 人

講師：中谷　紫乃（理学療法士・FTP マットピラティスインストラクター）

前年度「ととのう！現代人応援講座」のなかでピラティスを実施したところ、「続けてやりたい！」という声が多数あがったため、4 回連続講座で開催した。申込者は定員の 4 倍を超え、ピラティスへの関心の高さがうかがえた。夏に向けてカラダを整えることを目標にした講座ではあったが、まずは自分の体の歪みや不調と向き合うことが大事と講師から話があり、講座の初めは毎回その日の体の様子を確認することから始まった。受講者は回数をこなすごとに、正しい呼吸の方法や筋肉の使い方がわかってくるようになり、「カラダに変化が出てきた！」と講師に報告する姿も見られた。講座の後半は徐々にハードな動きにも挑戦し、講師のかけ声で全員がピッタリと難しいポーズを決められた時には自然と拍手が起こり盛り上がった。

講座終了後もピラティスを続けていきたいという受講者が何人かいたことから、自主グループでの継続した活動を提案したところ、10 人程が参加したいと集まった。講師も快く引き受けてくれ、現在月 1 回の活動を続けている。

～アンケートより～

無料で本格的なピラティスについて学ぶことが出来て大満足です！/体の動かし方の説明がとてもわかりやすくて、それに楽しい雰囲気で、ピラティス続けたいなと思いました。/ピラティスってしんどい、むずかしいという印象だったけど、講座を受けてみて先生のかけ声で動いていくと「できた～～～」ということが続き嬉しかったです。呼吸って大事なんだなと思いました。

＜課題＞

引き続き若い世代や現役世代が興味のある内容でプログラムを組み、公民館利用のきっかけとなるようにする。

自主グループのクラブ化を視野に入れた継続した活動

―成人対象事業―

ととのう！現代人応援講座

＜ねらい＞

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとし、日々のストレスを発散して現代人のワークライフバランスを整える。

男性の公民館利用のきっかけとする。

＜状況・成果＞

9/2、9/9、9/30　月曜日　19 時半～20 時半（全 3 回）　受講者 20 人

若い世代や、日中は仕事等で公民館に来られない人にも講座に参加してもらえるよう出来るだけ遅い時間での実施とした。また男性にも参加してもらいやすいよう、全日程とも男性講師に依頼をし、男性に関心を持ってもらえるような内容やチラシにした。受講者 20 人のうち過半数が 40・50 代、男性受講者についても 6 人の参加があった。

プライベート時間の充実をテーマに、自宅で出来る体幹トレーニング、インスタグラムで動画編集、好きを見つけるコーヒーテイスティングという内容を組んだ。

「自宅で出来る体幹トレーニング」では、日常生活を送るうえで体幹（インナーマッスル）を鍛えることが元気に過ごすために重要であるとの話があり、普段動かさない筋肉を使うトレーニング方法を学んだ。「インスタグラムで動画編集」では日々のお出かけや趣味の記録等に使える動画編集の方法を学び、受講者は初体験で分からないながらも周りの人と相談して教え合い、楽しんでいた。「好きを見つけるコーヒーテイスティング」では、コーヒー豆の産地・煎り方などの話を聞き、実際に煎り方の異なる 3 種のコーヒーをテイスティング。講師がトークテーマを提案してくれたこともあり、同じ班になった受講者同士がコーヒーを飲みながら和気あいあいとした良い時間を過ごしていた。

～アンケートより～

わかりやすく解説していただきやりやすかったです。地味に筋肉に効くメニューでしたので自宅で続けたいと思います（9/2）/動画編集に使えるアプリを教えていただいたので活用してみたいと思います。（9/9）/おもしろくてカジュアルに話が聞けて良かったです。理科の実験みたいで楽しかった。（9/30）/3 種類を飲み比べ出来て、味の違いがよく感じられました。楽しいトークと美味しいコーヒーで幸せな時間を持てました。（9/30）

＜課題＞

引き続き若い世代や現役世代が興味のある内容でプログラムを組み、公民館利用のきっかけとなるようにする。

男性が参加しやすい内容を取り入れる。

プログラム

内　　容	講　師
自宅で出来る 体幹トレーニング	山下　和訓 スポーツトレーナー
Instagram で動画編集	廣田　響 貝塚プログラミング教室 まちのすぐれもの登録者
好きをみつける コーヒーテイスティング	永野　理 琥珀珈琲焙煎処

シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

筋力が低下しやすいシニア世代の健康維持・フレイル（虚弱）予防をめざす。

＜状況・成果＞

9/3、9/17、10/1、10/15、10/29　火曜日　　13 時半～14 時半（全 5 回）受講者 30 人

講師：梅本道代（NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事）

高齢介護課と共催で高齢期の健康維持、フレイル予防をめざし開催している「シニア世代の筋力アップ講座」。

講師は、講座の準備が完了すると毎回職員と一緒に元気な声で一人一人に声をかけ、受講者は始まる前から元気がもらえた。また受講者が講座に来館してくる様子（歩いている様子）を観察し、受講者にとって必要な筋トレのプログラムを組んでくれた。

講座のはじまりは、シナプソロジー（脳トレ運動）を行い、受講者の緊張がほぐれ笑顔になってから筋力アップ体操を行った。

日常生活の癖が体のバランスを崩しゆがみ、膝や腰の痛みにつながるので正しい姿勢で運動する事が重要であり、また顎関節が硬くなると肩こりや腰痛そして、膝痛を引き起こす事があると教わった。歯みがきのように毎日して欲しいという膝痛改善運動では、講師が自宅でも継続できるよう資料を配布し、受講者が正しい姿勢で運動できているか時間をかけ確認しながら進めてくれた。受講者達は筋トレ運動する前後で、体の突っ張りが軽減したのを実感し、フレイル予防には筋トレ運動が欠かせないことを確認できたようだ。

最終回は、声を出しながらストレッチや筋力アップ体操をした。大きな声を出せるようになったところで、正しく靴を履き「セーフティウォーキング」※を意識しながら歩くと、見違えるほど背筋が伸び軽やかに歩くことができた。

筋力アップ講座を受講することで「意識しながら生活したら体の変化を感じる」と話す受講者がいた。講座終了日には講師を交えて会話する光景があり、来年も受講したいという声が多かった。受講者達の運動をしたいという意識は高く、講座を楽しみにしていることがうかがえた。来年度もフレイル予防をめざし健康講座を継続していく。

※セーフティウォーキング：からだに負担が少なく、長時間歩き続けても疲れず故障を起こさない歩き方

―参加者の感想―

・梅本先生の講座は大好きです。気持ち良くリフレッシュできて良かったです。ありがとうございます。
・受講生みんなに目を向けてくださりちょっとしたことも気づいていただき楽しく受講させていただきました。本当にありがとうございました。
・膝の痛みがとれました。感謝です。
・大変良かったと思います。なかなか体を動かす機会がないので。
・心身共にリラックス出来てとても良かったです。又受けたいと思います。
・分かりやすく強弱メリハリあるのが良かったです。靴紐のこと、できる範囲でしています。

＜課題＞

高齢期の健康維持・フレイル予防と、講座終了後に健康維持を途切れさせない工夫。

ふれあい料理

＜ねらい＞

料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供する。

受講者とボランティアの交流・育ちの場とする。

＜状況・成果＞

5/13～3/10　原則第 2 月曜日(12 月はクリスマス会)　10 時半～12 時半(全 10 回)

受講者延べ 157 人（内、指導員延べ 47 人）

浜手地区公民館の「ふれあい料理」では、毎回、いぶき作業所・社会福祉法人どんまい・ワークサポートセンターらぱんの施設利用者が指導員とともに参加しており、ボランティアの手助けを得ながら、調理・配膳・片付けまでを行っている。

4 月にボランティア・施設職員・公民館職員で令和 6 年度の「ふれあい料理打合せ会」を開催。施設職員より「浜手のゆったりとした講座の雰囲気が居心地よいので、このままの感じを継続してほしい」との意見があり、昨年どおりの内容で実施することを決定した。受講者（施設利用者）はこの講座をとても楽しみにしており、参加人数が限られている中で順番待ちになっているとのことだ。定員数が増える 12 月のクリスマス会を心待ちにしているという話も聞いている。

今年のクリスマス会は、浜手のクラブ、「ハーモニカアンサンブル　アンダンテ」を招いた。クラブ員の一人が昔大道芸をやっていたとのことで、「演奏のほかに大道芸も入れようと思うんだけど・・・」と提案してくれた。受講者たちはクラブの演奏を楽しみ、本格的な大道芸で大いに盛り上がった。食事後はボランティアによる恒例のなまえビンゴで遊び、利用者全員にプレゼントを用意した。ふれあい料理講座は月に 1 回かつ毎回メンバーも変わるが、12 月だけは受講者、ボランティア共に勢揃いするので、他施設の顔見知りのメンバーや料理ボランティアと嬉しそうに話していた場面が印象的であった。

講座では、できるだけ受講者が役割を持てるよう、簡単な作業があるようなレシピを考えている。材料費が高騰しているため、米や調味料等が無駄にならないよう、残りの量を共有するなどして次月に使えるよう考えている。講座終了後にはボランティアが毎回内容を振り返り、工夫できる点はないかなど確認し合い、よりよい講座運営に努めている。

月 日	メ　ニ　ュ　ー
5/13	ハヤシライス・新キャベツのサラダ・コーヒーゼリー
6/10	夏野菜カレー・ブロッコリーと大豆とゆで卵のゴマダレ和え・みかんとパインのゼリー
7/8	ごまドレサラダうどん・フルーツヨーグルト
9/9	バラ寿司・小松菜の煮浸し・杏仁豆腐
10/21	そぼろ丼・みそ汁・プリンのフルーツ添え
11/18	中華あんかけそば・中華スープ・ロールケーキ
12/9	【クリスマス会】鶏のからあげ・じゃがいものグラタン・スパゲティサラダ・ロールパン・スープデザート（ショートケーキ・みかん）・飲み物（コーヒー・紅茶）
1/20	チキンカツサンド・マカロニサラダ・ベーコンとキャベツの卵スープ・フルーツヨーグルト和え
2/10	チキンの照り焼き・豚汁・フルーツアイス
3/10	ちらし寿司・おすまし・小松菜の煮浸し・ロールケーキ

＜課題＞

利用者が参加しやすいレシピの工夫と講座運営。

新しいメニューの研究や高騰する材料費への工夫。

こうせい展

＜ねらい＞

身近な場所で障がいがある人の作品にふれ、障がい者理解につなげる。

家族や地域とのつながりの中で子育てをすることの大切さを伝える。

＜状況・成果＞

展示期間　10/4～10/20

第 1～3 回は、令和元～３年度にかけて山手地区公民館のロビーで開催し、また第 3 回目には、こうせい君の母によるトークイベントも行った。

今回の第 5 回こうせい展（第 4 回は他所で行われた）の新企画として、幼少期から現在中学 2 年生になったこうせい君の動画を含めた成長過程をモニターで流したところ、来館者が立ち止まって見入るといったことが多々あり、こうせい君の母が公民館に在中の時には、作品の説明をするといった場面など、母との交流も多くみられ、来館者に作品を通じて「共生社会」や「多様性社会」などの理解につなげた。

展示期間中は、クラブや団体の活動に来た利用者が鑑賞している姿も多く、山手地区公民館での展示を覚えている利用者が「こうせい君、成長してるー！」と感激をうけている場面もあり、いきいきと自由に表現されたこうせい君のこだわりがたくさん詰まった作品たちは、来館者を楽しませた。

こうせい君の絵がアートとしてイベントのチラシに使用されたり、Tシャツや陶器のお皿に採用されたりと活躍の場を広げており、多くの人に作品を知ってもらうことで、障がい者理解につなげている。

＜課題＞

今後も共生社会や多様性社会について、考えるきっかけや理解を深める場の提供に努める。

浜手アフタヌーンコンサート

＜ねらい＞

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる機会を作る。

市民と協働で文化事業を実施することで、市民の力を公民館事業に活かしていく。

＜状況・成果＞

4/11～2/13　偶数月第 2 木曜日　14 時～15 時　参加者延べ 631 人

月/日	タイトル	内容	出演者
4/11	躍動の季、彩るサクソフォンの春風	サックス四重奏	岩本雄太、山本恵、奥村芙未、松田拓也
6/13	ピアノで贈る名曲の花束	ピアノ	宮原雄大
8/8	故郷に贈る思い出の歌～旧友と共に～	声楽(テノール)、ピアノ	佐々木涼輔、岸元大周
10/10	ピアノであそぼう！！	ピアノ	宮崎剛
12/12	クリスマスに届ける愛の名曲	チェロ、ピアノ	伊石昂平、伊石有里
2/13	二胡よ、唄え！～悠久の音色に想いをのせて～	二胡、ギター	田中庸一、吉田裕也、田中寛治

市民の企画委員と職員の協働で企画・運営を行った。開演前に、乳幼児から高齢者や障がい者まで誰もが楽しめるコンサートであることを毎回伝え、コンサートの最後には、来場者みんなで「ふるさと」の歌唱や手話を行っている。

4 月のサックス四重奏では出演者の子ども達も来場し、小学生の子は開演前に案内のプラカードを客席に掲げるなど、楽しんで開演の手伝いをしてくれた。参加者にも好評で、コンサート全体がアットホームなあたたかいものとなった。

これまでも早々に整理券がなくなっていたが、6 月は配布日の午前中にすべてなくなった。初めて浜手で演奏する若手のピアニストの出演で、市民の期待感が高かったようだ。卓越した演奏に加え、作曲家の解説をクイズを交えて組み込むなど好評だった。

8 月は二色の浜パークタウン出身のテノール歌手に依頼した。日本の歌やイタリア歌曲などがたくさん披露され、トークのかけあいも楽しく、出演者の子どもも登場して会場が沸いた。

10 月のピアノ演奏では、世界で起きている戦争に想いを馳せる曲も演奏され、聴く者の心を打った。リクエストコーナーではその場で客席からリクエストを募り、10 曲以上を即興で自由自在にアレンジし、演奏してくれた。

12 月はチェロとピアノの姉弟での演奏だった。企画委員の発案で、楽器を始めたきっかけや、一緒に音楽をしている姉弟ならではのエピソードを話してくれるよう依頼し、出演者をより身近に感じられるコンサートとなった。

全回を通して、身近でアットホームな、あたたかいコンサートとなっており、乳幼児連れ、車椅子使用者や、視覚障がい者等の参加も見受けられた。

今年度、アンケートで「最後の『ふるさと』がいらない」という意見が出たこともあったが、8 月以降、声掛けや歌のリードなど盛り上げ方を工夫し、全員で大きな声で歌い手話をして、会場みんなで一体感を感じられるようにした。

整理券は配布 1～2 日でなくなることが続いており、2 月分から、これまで 120 枚だった配布数を 150 枚に増やした。配布 4 日目になくなったものの、ある程度希望する市民に行き渡らせることができた。また配布分で必ず参加してもらえるよう、来年度 4 月からは、1 人 4 枚まで可としていた

配布数を１人２枚までに変更することとし、２月の整理券配布時や、コンサートの中で案内した。

～アンケートより～

4 月：サックスのみというのもめずらしいですが、やはり生演奏はすばらしいですネ！！ありがとうございました。/日々の生活を忘れ自分だけの時をサックスと一緒出来て幸せな一時でした。又、楽しみにしています。ときめき…老いても復活しました。ありがとう。

6 月：変化に富んだ選曲が素晴らしかった。先生のお話もとても面白く、わかり易かった。シューマンの〈献呈〉ベートーヴェンの〈熱情〉心を打たれました。こんなステキな演奏会が身近にきかせて頂き幸せでした。

8 月：いつもすばらしい企画をありがとうございます。今日は故郷二色への想いがいっぱい聞けてうれしかったです。曲の紹介もよくわかり、すてきな時間をありがとうございました。次回も楽しみにしています！

10 月：宮崎先生のピアノ演奏、久々に聴かせて頂きました。クラシックはあまり聴く機会がないので、すごく心が洗われました。又の機会を楽しみにしています。リクエストコーナー素晴らしかったです。/主人闘病中の中の久しぶりのコンサート。かたくなっていた私が先生のピアノ、話術で心ひらきリラックスし楽しめました。又ガンバロウと力が出ました。

12 月：年末とは思えない、のどかであったかい日に、ご姉弟のなんともいえないやさしい雰囲気の演奏でした。チェロの音色と昂平さんのイメージとぴったりですね。ほんとうに愛につつまれたひとときでした。/どの曲も澄んで聞こえ、とてもとても心が豊かになった思いです。

2 月：二胡の演奏楽しみにしていました。音色が心にしみて、素晴らしかったです。特に、賽馬の演奏は感激しました。もちろん、全曲共、良かったです。/さむい中ちぢこまった頭と心がはれました。音がとてもクリア―でギターともよく合いますね。ありがとうございました。

＜課題＞

市民企画委員と協働で、市民が身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる文化事業を開催していく。引き続き、乳幼児から高齢者、障がいのある人など様々な人が気軽に参加できる場としていく。

4 月「躍動の季、彩るサクソフォンの春風」

6 月「ピアノで贈る名曲の花束」

12 月「クリスマスに届ける愛の名曲」

2 月「二胡よ、唄え！～悠久の音色に想いをのせて～」

Autumn Jazz Concert

＜ねらい＞

フルバンドの迫力ある生演奏を味わう。

親しみやすい文化事業をきっかけに公民館利用を促す。

＜状況・成果＞

9/29　日曜日　13 時半～15 時半　参加者 110 人

出演:中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ 20 人

フルバンドでの開催が 4 度目となった「Autumn　Jazz Concert」は、“ラテンとパーカッション”をテーマに開催した。整理券は 120 枚としたが、配布当日は時間前から窓口で並んで入手する人もいた。2 日ほどで予定枚数の整理券がなくなり、当日開場時間前からキャンセル待ちに並ぶ人もいて、このコンサートを楽しみにしている人も多い。

毎回 20 人近いバンドメンバーが集まるので、おおぞらこども園の駐車場を借用し出演者用とした。当日は午前に集合し楽器や荷物の搬入後、講座室、和室、料理室を更衣室として利用した。現役世代から退職者まで幅広い年齢層のバンドであるが、準備やリハーサルは高齢のバンドマスターを中心に賑やかに行われた。

本番では、スタンダードなラテンジャズや、映画音楽、聞きなじみのある曲など、貝塚市出身でなじみのあるバンドマスターがクイズ形式で曲名を参加者に問いかけ、その掛け合いを楽しみながら、20 人の迫力ある演奏を味わうことができた。

今回も出演者による参加者の見送りが行われ、出演者と参加者が直接声をかけあっていた。演奏中はもちろんであるが、この親しみやすいやりとりがコンサートの魅力でもある。

バンドマスターが高齢ということもあり、健康状態に配慮が必要になってきている。評判の良いジャズコンサートであるが、開催については出演者の負担が少ない形で継続していきたい。

【アンケートの感想より抜粋】

元気をもらいました。ありがとうございます。／近くでオーケストラの迫力に感動しました。／「マカロニウエスタン」のソロトランペットはとても感動。懐かしい、いろんなジャンルを聞けて思い出しました。沢山の演奏者で生演奏を目の前で聞く事ができ、とても楽しかったです。／生のジャズを久しぶりに聴かせて頂き感動しました。一つ一つの楽器演奏、素晴らしかったです。又聴かせて頂きます。お疲れ様でした。お身体を大切になさって下さい。／ジャズオーケストラ、生で聞くのは初めてでした。昼のひととき楽しかったです。／ありがとうございました。／耳慣れた曲が聴けて良かった。とてもなごやかで親しみやすいバンドだなと思った。／個人的にはトランペットが素敵でした。先生のコミカルなトーク、体調が悪いことも忘れてしまうくらい楽しいコンサートでした。／本格的なジャズ音楽を鑑賞するのは初めてでした。特徴も何もわからない中リズムと楽器の生の音を身体で感じて楽しい時間を持てました。次回もチャンスがあれば参加したく思います。MC も楽しくて時間のたつのも忘れました。

＜課題＞

フルバンドコンサートの継続開催または新規文化事業の拡充。

開催時間や事業の持ち方を検討していく。

色とりどりの音楽会

＜ねらい＞

プロの演奏家と講座受講者で一つのコンサートを作り上げ、市民の主体性を引き出す。

芸術を身近に感じられる場とする。

＜状況・成果＞

11/30　13 時半～15 時　参加者 101 人（内よる☆うた受講者 13 人）

出演：花篤孝子（ソプラノ）、谷村悟史（テノール）、白原理香（ピアノ）

7 月からの連続講座「よる☆うた」講師の花篤氏に依頼し、プロの演奏家と「よる☆うた」受講者の発表の場としてのコンサートを開催した。講師と何度も打ち合わせてイメージを共有し、合唱経験の少ない「よる☆うた」受講者が一緒に出演できる多彩なプログラム構成を考えた。「よる☆うた」は最初の 15 分の発表と、最後に全員で歌う 1 曲のほかに途中の 1 曲でプロの歌唱に合わせて数人でバックコーラスを担当し、司会も受講者の 1 人がすることとなり、受講者が活躍できる場面を多く組み込んだ。

プロの出演者としては「よる☆うた」講師がソプラノと鍵盤ハーモニカを担当し、ほかにテノール歌手とピアニストが出演した。中でもテノール歌手は、クラシックに限らずミュージカル曲など幅広い歌唱ができるのが持ち味で、曲のジャンルによって歌い方を変え、皆が楽しめるように全力で演じ、参加者の心を掴むパフォーマンスだった。直前のリハーサルでも、プロの演奏家達が最後の最後までパフォーマンスを練り上げる姿を受講者が目の当たりにし良い刺激になり、出演者全員が気持ちも盛り上がり力を発揮できた。

講座受講者はやりがいを持って自主的に運営に関わり、会場設営や受付も行った。自分達で協力しあってコンサートを作り上げたことで達成感を得、すばらしい経験となったようだ。終了後は「感動した」「このグループで活動を続けたい」という声が聞かれた。

コンサートは大盛況のうちに終了し、参加者からは、「プロの演奏家のみならず、『よる☆うた』受講者の歌唱も心に響いた」等、たくさんの感想が寄せられた。

～アンケートより～
ありがとうございました。楽しそうに歌っておられるよるうたメンバーさんたちの姿が胸にしみました。/テノールの谷村さん、ソプラノの花篤さん、すごい声量で良かった。満足しました。文句なしに楽しい音楽会でした。ありがとうございました。/テノールの方の声量の豊かさ！ソプラノの方の華麗さ！素晴らしかったです。貴重な一時を過ごせました。全曲伴奏の白原先生もすごい！！/素晴らしい歌声をありがとうございました。ＭＣも最高でした。「よるうた」のコーラスもよかったです。昔やっていたコーラスをやりたくなりました。又の機会を楽しみにしています。/楽しいトークと歌でした。浜手公民館がこんなにすばらしい企画をされておどろきました。ありがとうございました。

＜課題＞

今後も講座受講者が主体的に活動したり、発表できる場を考える。

にんぎょうげき

＜ねらい＞

子どもから大人まで、生の人形劇を楽しむ。

公民館や地域で活動しているグループの交流、発表の場とする。

＜状況・成果＞

2/22　土曜日　10 時半～11 時 10 分　参加者 102 人

出　　演	演　　目
人形劇きしゃぽっぽ（浜手地区公民館クラブ）　4 人	オレ、カエルやめるや・手遊び
おおぞら劇団（おおぞらこども園保育教諭）7 人	こぶとりじいさん

今年度も人形劇きしゃぽっぽとおおぞら劇団に依頼し、乳幼児や小学生、大人も楽しめる人形劇を開催した。

当日はこども園の園児も参加し、大勢の保護者と子どもが集まった。アンケートの回答によると参加した子どもの年齢は 0～9 歳で、コロナ下と比べると、少し大きい子が多く、ストーリーのある演目を楽しめた。

子ども達は最初、静かに人形達の動きを目で追いながら集中して見ていたが、徐々にお話につっこみを入れる子が出てきて、手遊びでは会場が大いに沸いた。後半の演目も、ピアノや太鼓の生演奏とともに人形達が歌う場面や、子どもに問いかける場面もあり、盛り上がった。

鬼の出てくる場面では少し怖がっていた子も、その後の楽しい場面では大喜びで人形に手を振り、思い切り楽しんでいた。友達同士で参加した小学校低学年の子達が大人に聞きながら自分の言葉でアンケートに感想を書いたり、終演後は、出口でお見送りをする人形達とふれあうことができ、良い体験ができた様子だった。

出演者の反省会では、「楽しかった」「大変だが、子ども達に元気をもらっている」「近隣で人形劇団が減っている現状もあり、子ども達のためにまた来年もしたい」との話が出た。2 団体ともお互いにぎりぎりまで演技を確認し合い、修正して本番に臨んでいたが、終了後も、今後さらによくしていくための意見交換を活発にしていた。

～アンケートより～

とてもかわいくて楽しかったです。こどもも夢中で集中して楽しんでいました。ありがとうございました。/カエルのおはなしもおおぞら劇団さんも見入ってしまうほど上手でした。もっとききたいです。たのしかったです。/毎年楽しみにしています。前方の子どもたちの席で、お友達と一緒にたのしそうにみていました。ありがとうございました。合間の手遊びも、たのしんでました。/かえるがあれになりたいこれになりたいと、いっぱい言っていておもしろかったです。

＜課題＞

子ども達、親子らが楽しめる人形劇の継続。

引き続き複数団体の出演とし、団体間での交流及び、出演者と参加者の交流を図る。

ふれあい料理ボランティア

＜ねらい＞

障がい者の料理作りのサポートを通して、食の自立への支援を行うと共に、ボランティア集団の学びの場とする。

＜状況・成果＞　　登録者数 11 人

4/8、ふれあい料理講座打合せ会を開催。ボランティア、施設職員、公民館職員の三者打合せ会として実施した。施設職員から「浜手のゆったりとした講座の雰囲気が居心地よいのでこのままの感じを継続してほしい」との意見があり、今年度も同じ規模・運営方法で開催することを決めた。

5～7 月、ボランティアは 3 グループに分かれ、月ごとに 4 人ずつ調理サポートに携わった。11 月には例年行っているクリスマス会について打合せをした。職員がリードせずとも自然とベテランのボランティアが進行を務め、新しいメンバーにもきちんと段取りを説明しながら、役割を手際よく決定していった。クリスマス会当日はボランティア 9 人が参加し、60 人分の料理を作り、配膳、片付け、なまえビンゴゲームの進行などを行った。当日参加できないメンバーは材料の買出しやプレゼントのラッピング等に尽力した。担当職員は、参加者との会場設営やレクリエーション発表のクラブ員の準備等で、ほとんど料理室に入ることができなかったが、ボランティアが定期的に進捗状況を報告してくれ、安心して任せることが出来た。

今年度、山手のふれあい料理ボランティア主催で研修兼交流会が開催された。浜手からも 4 人のボランティアが参加し、各館のふれあい料理の運営状況報告やレシピの交換などを行った。ふれあい料理の参加者にどう役割を持ってもらうかなどの課題も話題にあがった。

今後もボランティアとしっかりコミュニケーションを取り、安定したふれあい料理の開催ができるよう努めたい。

＜課題＞

ボランティアの確保。

利用者の特性を理解したコミュニケーションをとるため、学習の場も検討する。

保育ボランティア

＜ねらい＞

保育付き講座の受講者が安心して受講できるよう、子どもにとって安全な保育を実践する。

ボランティアが活躍できるようサポートする。

＜状況・成果＞

定期登録者５人　不定期登録者５人

今年度、仕事や他のボランティア活動との兼ね合いでやめる人も出たが、不定期登録者にも依頼し、5/17～7/5 の保育付き講座「げんきに子育て」の保育を行った。1～2 歳の子ども５人の保育申込みがあった。

事前に行った準備会では、保育の申し込み状況と保育の流れ、講座の内容などを確認し、子どものおやつは受講者に持参してもらうこととした。

講座１回目の「オリエンテーション・交流会」では、受講者への保育の説明と、その後の手遊びや絵本の読み聞かせなどをボランティアが担当した。今年度は新しく入ったボランティアが元保育士の経験を生かし、エプロンを使った人形劇も披露した。

毎回の講座の前後には、ボランティアが受講者に話しかけて子どもの家での様子を聞いたり、保育中の子どもの様子を伝えるなどしており、ボランティアは受講者達にとって、気軽に子どものことを話し、子育てのことを相談できる存在となっていた。ボランティアは、日によってぐずったり機嫌よく遊んだりとさまざまな表情を見せる子ども達を気にかけ、回を重ねるごとにだんだんと慣れて懐いてきたり、子ども同士でも仲よくなっていく様子に、やりがいと喜びを感じていたようだ。

ボランティアと親子でレクリエーションを行う「市民の森へおでかけ」の回は、雨天のためホールで行うこととなったが、その際も様子をみながら、子ども達が思う存分楽しめるように盛り上げ、ボランティアの力が発揮された。

また工作が得意なボランティアが中心となり、毎回少しずつ作業をして最終日に受講者親子に渡すプレゼントのカードを作った。記念になるよう写真を貼ったり、飛び出す仕掛けにしてメッセージを書き込むなど子どもが喜ぶ工夫をたくさん盛り込み、ボランティアの親子へのあたたかい気持ちが感じられた。

自身の経験からも、もっと多くの母親に保育付き講座に参加してもらいたいと考えているボランティアが多く、反省会では、受講者減の要因と、どうすれば受講者が増えるか PR 方法などを職員と一緒に考えた。

ボランティアは、自分達で連絡・相談して動く体制ができている。公民館保育をきっかけに、「もっと保育を勉強したい」と、保育士資格の勉強を始めたボランティアもいる。また「SALON BeBe」第４週目の造形あそびボランティアにも数人が携わり、活動の幅を広げている。

＜課題＞

新規ボランティアの確保。

ボランティアの活動機会を継続し、乳幼児親子との交流を進める。

保育付き講座の PR に、ボランティアの力を活用する。

浜手アフタヌーンコンサート企画委員

＜ねらい＞

公民館と市民との協働でコンサートを企画・運営し、公民館事業に市民の力を発揮できる場をつくる。

＜状況・成果＞

6 人で活動している。2 ヶ月に 1 回、計 6 回の会議を行い、浜手アフタヌーンコンサート開催ごとの振り返りと、今後の企画・打ち合わせなどを行った。コンサートの感想やアンケートを元に、どうすれば、より参加者に身近に楽しんでもらえるかを職員とともに考え、「皆がよく知る曲をプログラムに入れてもらう」、「身近なトークテーマで出演者に話してもらう」、「コンサートの最後の『ふるさと』をどう盛り上げるか」など、委員の意見をコンサートに反映させた。

毎回のコンサートでは、ポスター掲示やその依頼、近隣へのチラシポスティング等の広報活動、当日の準備・受付・開演挨拶・来場者対応・片付け等を職員とともに行った。

企画・運営には、委員の人脈や、知識、経験が生かされている。高齢の委員もおり、新しい委員を確保することが課題となってきている。広報かいづか 5 月号に募集記事を掲載したが、問合せや申込みはなかった。

＜課題＞

引き続き、来場者が身近に楽しめるコンサート作りへの協力を促していく。

新しい委員の確保。

図書整理ボランティア

＜ねらい＞

ボランティアの協力を得て、多くの人が本に親しみ楽しめる環境を整備する。

ボランティアが主体的に活動できる場の提供。

＜状況・成果＞

家庭文庫「エルフの森」が図書コーナーで月 3 回程度本の整理を行っていて、季節やテーマに合わせて並び替えをしてくれている。たくさんある本の中から親子連れや子ども達が手に取って欲しい本やお勧めの本は、表紙が見える陳列で目に留まり、手に取りやすくなっている。一般の利用者に混ざり活動を行っているため、図書整理ボランティアの存在を知る機会は少ないが、いつ来ても本が整理されていることは利用しやすさに繋がっている。図書館が行っている図書整理は年に 1 回であるため、日々の整理はボランティアの関わりが大きい。

また、ボランティア謝礼を数年貯めておすすめの本や破れている本などを購入し寄付されており、図書コーナーの充実にもつながっている。浜手では図書の予約本の貸し出しも含め、乳幼児から高齢者まで幅広い世代が利用している。待ち合わせやクラブ活動前後の時間に図書コーナーが目に留まり、ふと手に取ってみたくなる、そこに図書整理ボランティアが存在している。

＜課題＞

引き続き、ボランティアが主体的に活動できるよう支援する。

―地域連携事業―

二色学園コラボ芸術鑑賞会

＜ねらい＞

今年度コミュニティ・スクールとして開校した二色学園と地域住民、公民館利用者がつながりを深める機会とする。

＜状況・成果＞

10/18　金曜日　10 時 45 分～12 時 35 分　参加者 二色学園生徒 227 人 地域住民 34 人

出演　ちゃんへん.（ジャグリングパフォーマー）

　　ストレッチ体操　浜風（浜手地区公民館クラブ）

今年度から義務教育学校として開校した二色学園はコミュニティ・スクール「地域とともにある学校づくり」を導入した。その二色学園として初めての芸術鑑賞会を浜手地区公民館とのコラボで開催することになった。公民館としても初めて取り組んだ学校との共催は、日程の調整から地域住民の関り方や開催目的に相違はあったが、話合いを重ね折り合いをつけて開催した。

当日はストレッチ体操浜風（以下、浜風）が出演し、生徒達もよく知っている「つげさん体操」を含む 2 曲で盛り上がり、会場が一体となって始まった。次にちゃんへん.さんによる演技と講演を行った。

1 部のジャグリングパフォーマンスでは、子ども達が世界レベルの技を見て、新しい技が出たときそして、難易度が上がる度に大きな歓声を上げた。2 部では 5 年～9 年生対象に在日コリアン 3 世としての生い立ちや、つらい幼少時代から考え方をプラスに変えてきた事、世界への扉を開いた経験などを聞いた。

開演前や休憩時間には、生徒と公民館利用者が声を掛け合い、挨拶する姿があった。日常的にある公民館のロビーでの交流、公民館クラブ・グループが関わっている夏の子ども講座等のつながりを感じる場面があった。中には公民館以外で会った驚きの表情を見せる子もいたが「また公民館で会おう！」と声を掛けられ笑顔で答える姿があった。

浜風のクラブ員は出演前には緊張している様子だったが、体操が始まると次第に笑顔になり楽しそうに体操を披露していた。終了後「体操していた時に子ども達の笑顔が見え、大きな歓声が私達も元気をもらい楽しかった」と話していた。今回コラボ事業として地域住民でもある公民館利用者が二色学園の子ども達の大きな歓声と共に鑑賞したことは、貴重な時間となった。

～二色学園２年生の感想より抜粋～

・はま手ちく公みんかんのみなさんが体そうをしているすがたを見たら、ぼくもおどってみたくなりました。これからも元気にがんばってください。また来ておどってほしいです。公みんかんに行くのがいつもより倍にたのしくなりました。

・たのしいだんすでおどりそうでした。公みんかんでも楽しいあそびや、べんきょうもできてうれしいです。ダンスじょうずでした。田中さんがつげさんたいそうをつくったなんてしりませんでした。きてくれてありがとうございます。

～地域の方アンケートの感想より抜粋～

・子ども達の歓声に久しぶりに感動しました。

・感動しました。子ども達と一緒に見れてよかったです。

・ただの大道芸だと思っていたのですが、これだけ素晴らしい芸術的なものだとは知らなかったです。子ども達の元気な応援も盛り上がってよかった。

・世界レベルの技を目の当たりできてよかった。子ども達の大きな驚きが印象的でした。

＜課題＞

学校との連携や協働について理解を深める。

ふれあいまつり

＜ねらい＞

公民館で活動しているクラブの活動成果発表の場。

クラブや地域団体・参加者との交流の場。

＜状況・成果＞

10/26　土曜日（展示のみ）　13 時～16 時

参加者延べ 150 人

10/27　日曜日（舞台・展示・模擬店）　10 時～14 時

参加者延べ 1500 人

参加団体：24 クラブ 10 団体

昨年度は盛大に開催されたふれあいまつりだが、次の実行委員長が決まらないまま 3 月の利用者連絡会（以下、利連）新旧役員会を迎えることになった。会議の中で「大きなまつりをする必要はない、今いるメンバーでできることを考える、長をする人がいないならまつりをしないことも考えたらいい」と浜手職員の考えを話したところ、「まつりを無くすのは嫌」と、今回に限り、利連の役員が実行委員長を引き受け、運営は利連役員全員で考えていくことになった。委員長は、「クラブ員が受け身でいること」「皆が実行委員長は大変な仕事だと思っていること」が課題だとし、今年度のまつりで運営の簡素化とクラブ員が主体的に考える機会を作ることを目指した。そこに職員も一丸となり同じ方向で進むための話し合いの時間を何度かもった。

簡素化の主な内容として①全体会議を減らす②広報手段は公民館からの市報とインスタグラム掲載のみで、チラシ・ポスターは作らない③各部会のリーダーとサブが中心に動くことで、実行委員長の仕事を極力減らす、の 3 点をあげた。

委員長が、これらの方向性を 5 月の第 1 回ふれあいまつり実行委員会で正直に伝えたうえで引き受けたことで、皆が自ら考えるきっかけとなり、以降、委員の主体性が発揮されることにつながった。舞台部会からは、「チラシは無くてもいいが、プログラムは必要だ」と、他部会にも呼びかけプログラム班が始動した。展示部会では、リーダーを支える委員が出てきた。模擬店部会では、クラブと団体での意見交換を大事にしながら会議を進めた。

誰でも担えるまつりを目指し、従来のやり方を変えたことで、時にはクラブ員から批判的な意見も出たが、その都度実行委員や職員が丁寧に説明していくことに徹した。

準備を含め、まつり当日は大きな問題もなく、賑わいのあるふれあいまつりが開催でき、反省会では「今回のやり方が良かった」という意見が多かった。今年度は利連役員が陰でまつり運営を支え、また、この 1 年の取り組みが生かされるよう、実行委員会だけでなく、利連定例会でもまつりについての話し合いを積極的に行った。来年度も同じやり方で進めていくことを確認し、ふれあいまつりは利連のまつりという考え方に落ち着きつつある。

一方で、利連役員がまつりの実行委員長を担うことが慣例となると、今後一層役員を引き受ける人がいなくなるのでは、また、クラブに入らなくても舞台発表等ができるという現状が、クラブ化を敬遠しグループ活動に留まる一因になっているのではないか、という意見もある。

＜課題＞

誰でも運営を担えるまつりを目指した今年度の取り組みを継続するための支援と利連の活性化。

ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）

＜ねらい＞

市民のコミュニティの場として整備し活用する。

＜状況・成果＞

ロビーには歓談しやすいようテーブルと椅子を配置し、二色学園の小学生から地域の大人まで、さまざまな年代が利用している。平日の 11 時から 14 時は地域ボランティアと障がい者施設の利用者（火曜日は社会福祉法人どんまいのボランティア、金曜日はいぶき作業所）がコーヒーコーナーを開設しているので、それを楽しみに、地域の人が立ち寄ったりクラブ員がクラブ終わりにコーヒーを片手に談笑したりする。さらに今年度は、外国籍の方が訪れ、ロビーで英語や韓国語を交えながら日本語の勉強をする姿もあった。

今年度も学校行事として小学 2 年生が施設見学に訪れたことで、子どもと職員との距離が近くなった。放課後、友達と一緒に公民館に来て「かんちょー、こんにちは」と元気に挨拶をしてくれる。事務所前には自由に遊べるゲームを置き、卓球もできるので、子どもだけでなく、大学生や大人も含め順番に楽しんでいる。ただ時々、遊び方が荒くなり遊具が破損することがあったので、その都度、丁寧に扱うよう声を掛け対応している。

ロビーに人が集まることで、公民館の講座・事業のチラシをじっくり見て、持ち帰ったり講座の申し込みをしたりする人が多くなっている。図書整理ボランティアにより、常にきれいに絵本が並べられているので、絵本を手に取りソファーで読み聞かせをする乳幼児親子の姿もあり、職員が声を掛け、子育て支援事業「SALON BeBe」につながったこともあった。

【ロビー展示】

展 示 内 容	期　　間
七夕飾り（放課後子ども教室活動）	6 月 24 日～7 月 8 日
中央公民館　月曜絵画クラブ作品展	8 月 5 日～8 月 26 日
夏の子ども講座　作品展示	8 月 6 日～8 月 16 日
二色校区福祉委員会サポート部会　活動紹介展示	8 月 26 日～8 月 31 日
夏の子ども講座報告	9 月 1 日～9 月 30 日
こうせい展	10 月 4 日～10 月 20 日
陶芸こねこねクラブ作品展示	10 月 21 日～10 月 25 日
クリスマスツリー（放課後子ども教室活動）	11 月 7 日～12 月 25 日
中央公民館　ろうの花クラブ作品展	11 月 12 日～11 月 26 日
かいづか家族の日　展示	11 月 18 日～12 月 2 日
中央公民館　コスモ写真クラブ作品展示	2 月 23 日～3 月 2 日
二色校区福祉委員会サポート部会　活動報告	3 月 2 日～3 月 16 日
三館交流舞台発表会映像	3 月 3 日～3 月 21 日
関西万博 PR 動画（政策推進課）	3 月 22 日～4 月

＜課題＞

引き続き、誰もが集いやすい居場所作りの工夫。

公共施設の使い方への理解を促す。

プレイルーム開放

＜ねらい＞

利用のない時間帯にプレイルームを開放し、乳幼児親子が安心して過ごせる場を提供する。

＜状況・成果＞

4/8～3/8　（69 回）　参加者延べ 280 人

近隣に乳幼児のいる家庭や転勤で貝塚市に住むことになった家庭も多く、乳幼児親子が安心して過ごせる場、親子同士が交流できる場として、利用のない時間帯にプレイルームを自由に使えるよう年間を通して開放している。同じ時間帯に他の親子が遊びに来た時は一緒に使用してもらうよう伝えている。

利用は、家族または友達家族が多くまた、帰省してきた親子 3 世代での利用もあり、子どもが気軽に遊べる空間となっている。複数の家族が集まって利用している日は、おもちゃをたくさん出して、楽しく遊ぶ姿が見られた。今年度は小学生親子も利用可としたため利用は広がったが、遊具や玩具の扱いが荒く破損することがあったため、対象を乳幼児親子に戻し、職員間で利用基準の徹底を再確認した。

＜課題＞

乳幼児親子が安心して過ごせる居場所の周知を図っていく。

第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）

＜ねらい＞

校区内の学校、公共施設、地域の団体・住民が情報を交換し、定期的な会議での交流を深めることにより、子どもを中心とした事業の協働を進める。

＜状況・成果＞

毎年、年 3 回の会議に出席し、周辺施設、学校、こども園、地域団体の近況報告、課題・問題点の解決のため共通理解を図っている。定期的に発行されている「すこやかネットニュース」には、子ども対象の公民館事業などを記事にして提供した。

＜課題＞

地域の子どものすこやかな成長と見守りのため、積極的に公民館としての役割を担っていく。協議会でのつながりを事業運営に繋げる。

二色パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）

＜ねらい＞

公民館周辺地域住民との相互交流を図るとともに、会議に参加し、課題の解決・地域の福祉に資する。

＜状況・成果＞

パークタウン連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会に、地域の公民館として、職員が情報交換やその地域独自の課題について共有するため、年に十数回ある会議に参加している。

今年度の「盆踊り」は、通常規模で行い大盛況に終わった。また、新型コロナ感染拡大防止対策の経験を十分に活かしながら安全・安心の開催に努めた。

「防災訓練・避難訓練」は、4 月からの新役員とともに、隔月に開催される防災専門委員会を重ね、避難訓練前日には豚汁の炊き出し準備など、二色パークタウンのチームワークと団結力に驚いた。また、防災専門委員会に参加したことによって、防災に対する意識の大切さを改めて認識できた。

＜課題＞

引き続き、昨今の社会状況を考慮に入れ、地域の公民館としての役割を検討していく。

【参考】ほかでもがんばっているよ　浜手地区公民館利用者連絡会所属クラブの地域での活動

月日	クラブ名	会　　場	備考（感想など）
4/25（木）	ﾊｰﾓﾆｶ・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ「アンダンテ」	二色の浜あんしん住宅デイサービス	メンバーの体調も良く、10名全員で参加できた。入居者の方や施設職員さんも一緒に盛り上があり大爆笑。
7/19（金）	人形劇きしゃぽっぽ	岸和田市立天神山小学校学童保育	1～6年生が楽しく参加してくれた。久しぶりに年齢層の高い子ども向けの内容ができ、私たちも楽しめた。
7/31（水）	朗読ぐるーぷサルビア	ラパーク岸和田（非核平和資料展オープニング式典）	「対馬丸～さようなら沖縄～」
9/12（木）	ﾊｰﾓﾆｶ・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ「アンダンテ」	二色の浜あんしん住宅	2回目の依頼。赤のアロハシャツを着て華やかに演奏し、演奏に合わせて楽しく歌っていただけた。
9/13（金）	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立太田小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
9/20（金）	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立八木南小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
9/27（金）	朗読ぐるーぷサルビア	東山小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
10/4（金）	朗読ぐるーぷサルビア	中央小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
10/11（金）	朗読ぐるーぷサルビア	北小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
10/18（金）	朗読ぐるーぷサルビア	二色学園	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
10/25（金）	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立光明小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
11/1（金）	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立八木北小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
11/7（金）	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立東光小学校	修学旅行前学習「帰り来ぬ夏の思い」
11/21（木）	ﾊｰﾓﾆｶ・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ「アンダンテ」	二色の浜あんしん住宅	3回目の訪問。今回は大きな紙に歌詞を書いてくださり、皆前を向いて大きな声で歌って楽しんでくれた。
11/23（土）	コーラス・サラダボール	いぶき作業所	皆さん、歌ったり楽器を鳴らしたりし、うまくできた時は私たちにハイタッチ。楽しい時間を過ごせました。
12/8（日）	ﾊｰﾓﾆｶ・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ「アンダンテ」	鳥羽町会	男性陣も元気に歌っていただき嬉しかった。また、「ジングルベル」で鈴を振っていただき賑やかになった。
12/20（金）	人形劇きしゃぽっぽ	北幼稚園	去年のことを覚えていて「自分たちも！」と自主的にプレゼントを作ってくれたと聞き、嬉しかった。
2/18（火）	人形劇きしゃぽっぽ	南幼稚園	大人（PTAのみなさん）も子どもたちも大変喜んでくれ、演じていてとても楽しい一日でした。
3/21（土）	コーラス・サラダボール	浜手地区公民館（二色学園スプリングコンサート）	ブラスバンド部（二色学園・四中・OB）の合同演奏に合わせ合唱。若者と一緒の演奏会で楽しい一日でした。

浜手地区公民館利用者連絡会

＜ねらい＞

公民館活動への理解を深め、自主的な活動ができるよう支援する。

クラブが連携して活動に取り組み、課題を共有して活性化できるよう支援する。

＜状況・成果＞

クラブ数 24　全クラブ員数 301 人　役員 8 人（8 クラブ）

今年度は役員が全員入れ替わるということで、新年度が始まる前の新旧役員会には職員も入り、しっかりと話し合う時間をもった。役員の任期は 2 年だが、近年はクラブ内で 1 年ずつ交代している現状があることや、昨年度 1 年かけ運営のあり方を話し合ってきた経過を説明した。2 年目の役員がいないということは、新役員にとっては寝耳に水という感じだったが、経験者が 2 人いたこともあり、なんとか引き継ぐことができた。また、ふれあいまつりをこれまでの実行委員会形式で開催するのか、浜手地区公民館利用者連絡会（以下、利連）役員が担うのかという課題についてもすぐには答えが出ない状況だった。（ふれあいまつりについては地域連携事業）

最終、経験者の 1 人が利連の委員長を引き受けることになり、委員長が決まってからの運営についてはとてもスムーズに進んだ。年度をまたいで取り組んでいたクラブ員へのアンケート（昨年度役員の考えでは 5 月に座談会をもつ予定だった）を、5 月に再度クラブ内で考えてもらい、座談会は 7 月の定例会で行なった。委員や役員を負担と感じているマイナスの意見が多く出たが、新委員の中には、昨年度の流れを知る人や長く委員をしている人もいて、時には役員の重要性や公民館の意義も語られるなどし、さまざまな意見が交わされた。また、利連の運営を誰でも担えるようにしたいと、有志 5 人が集まり、公民館利用の手引書作成委員会が発足した。

定例会での熱い議論や利用者による手引書作成の流れを受け、9 月の定例会には職員も全員参加し、職員一丸となって利用者と一緒に進む意思を示した。

役員の 2 年任期については、負担を減らしつつ少しでも引き継ぎしやすいよう、（これまで認めていなかった）クラブ内での交代を認める方向で決定された。結果がどうあれ、長所も短所も、賛否両論あるが、クラブや利連の運営についての課題をクラブ委員におろし、約 2 年かけ全員で考え話し合ったことは良い経験だったと言える。

役員の中には子連れの母親がいたが、なるべく負担の少ない役割を担ってもらい、会議に連れてきた子どもの相手をするなど、他の役員からの気遣いが見られた。互いを配慮したことで、1 年やってみて楽しかったという感想が聞けた。

12 月は新役員・委員選出の時期で、例年まずは立候補を受け付けるが、今年度初めて、立候補しても良いという人が出てきた。ただ有期 1 年という限定であったため輪番制に少し変化が出る。役員全員に戸惑いがあったため、話し合ってもらい、最終、立候補しても良いという本人の意思を尊重しようと前向きに受け止めることになった。来年度役員は、3 人が継続することとなる。

＜課題＞

利連運営を誰もができるような工夫が必要。

将棋を楽しむ場

＜ねらい＞

将棋を気軽に楽しむ場を作り、将棋を通じて親睦を深める。

クラブの立ち上げ。

＜状況・成果＞

4/14～3/9　第 2 日曜日 13 時半～15 時半　受講数 14 人（内、小学生 8 人）延べ 76 人

協力（世話人）：松原敬次

昨年度、浜手地域の利用者から「地域の皆さんに将棋を楽しんでもらい、貝塚で将棋を普及したい」と相談があり同年、クラブ化も視野に、講座として支援してきた。

今年度は大人 1 人、中学生 1 人、小学生 6 人の申込みがあった。夏休みに開催した「夏の子ども講座」や「N ゲージ走行展示会」の参加がきっかけになり申込んだ子どももいた。連続して参加できる人は少ないが、子どもと大人が一緒に将棋を指す姿があり、年齢・性別問わず将棋を楽しむ場となっている。また、小学生を連れて参加する保護者が、我が子以外の子どもと関わる様子が見られる。

支援がスタートして 1 年経った 12 月、世話人と今後どのように活動を進めるか話し合う機会を持った。今は、受講者数が不安定で、クラブ化は難しく自主グループとして活動したいという意向だった。グループ活動を始めるにあたって、活動時間を延長し進めていくことになった。大人の参加率が低いため、大人が楽しみ強くなるために相互のアドバイスや、定跡などを意見交換する時間を設ける。世話人から受講者へ配った「グループ化について」の説明書面には、目的、対象者、活動日時、会費など具体的な運営方法に加え、受講者の意見を聞きながら進めていきたいという内容が記されていた。グループ活動が始まると広報などで紹介できないため、グループ化を前に広報 4 月号に掲載し「将棋を楽しむ場」の支援を行った。そして令和 7 年 5 月からグループ活動がスタートする。

＜課題＞

今後はグループ活動になるが、クラブ化を視野に協力していく。